

シ ラ バ ス

都市工学専攻

2021 年度

神戸市立工業高等専門学校

— 目 次 —

1. 専攻科の概要	- 1 -
1-1 総説	- 1 -
1-2 専攻科の沿革	- 1 -
1-3 教育の特徴	- 1 -
1-4 養成すべき人材像	- 2 -
1-5 修了時に身につけるべき学力や資質・能力（学習・教育目標）	- 3 -
1-6 教育課程	- 6 -
1-7 学年・学期	- 6 -
1-8 休業日	- 6 -
2. 履修に関する事	- 7 -
2-1 科目の単位と時間数	- 7 -
2-2 受講手続	- 7 -
2-3 試験と単位の認定	- 7 -
2-4 専攻科修了要件	- 7 -
2-5 修業年限	- 8 -
2-6 学位（学士号）の取得	- 8 -
3. 大学での科目の受講及び単位取得に関する事	- 9 -
3-1 学園都市単位互換講座の履修について	- 9 -
4. 学位授与申請に関する事	- 11 -
4-1 学位授与制度とは	- 11 -
4-2 学位授与までの主なスケジュール	- 11 -
5. 学生生活に関する事	- 12 -
5-1 専攻科生の学生生活に関する注意点	- 12 -
5-2 専攻科生の研究活動に関する注意点	- 12 -
6. 情報資産の取り扱いについて	- 12 -
7. 神戸市立工業高等専門学校専攻科特別実習要項	- 13 -

【専攻別シラバス】

1. 専攻科の概要

1-1 総説

専攻科は、高等専門学校を卒業した者に対して、「精深な程度において、特別の事項を教授し、その研究を指導する」ことを目的として平成3年の学校教育法の改正により創設された新たな2年間の専門課程です。

専攻科の修了者は、一定の要件を満たせば大学評価・学位授与機構に申請し、学士の学位を取得することができ、同時に大学院への入学資格を得ることができます。

本校専攻科は、5年間の高専教育の基礎のうえに、さらに高度の専門的学術を教授研究し、創造的専門学力、技術開発能力及び経営管理能力を有する開発型技術者を育成することを目的としています。

1-2 専攻科の沿革

昭和38年 4月 1日	神戸市立六甲工業高等専門学校を設置 (昭和41年4月1日神戸市立工業高等専門学校に名称変更)
平成10年 4月 1日	専攻科(電気電子工学専攻・応用化学専攻)を設置
平成12年 4月 1日	専攻科(機械システム工学専攻・都市工学専攻)を設置
平成20年10月22日	専攻科設立10周年記念式典を挙行政(記念誌の発刊)
平成30年11月 2日	専攻科設立20周年記念講演会を開催(記念誌の発刊)

1-3 教育の特徴

学校教育法の改正により、高専に新しく設置された専攻科では、「深く専門の学芸を教授し職業に必要な能力を育成すること」を目的とする高専制度の基本を変えず、高専教育の「アイデンティティ」を保持しながら、「精深な程度において特別の事項を教授し、その研究を指導する」ことを目指しています。

本校の専攻科も設置目的は他高専と同じではありますが、その教育方針には次のような独自の特色をあげています。資源量の少ないわが国が、科学技術をもって世界に肩をならべ、発展を持続させていくためには、高度に技術化され情報化された産業技術に対応した高度な教育が必要です。

専攻科においては、実践的な専門技術者の育成を目指す5年間の高専教育の上に立ってさらに工学の各分野に造詣の深い教授陣が専門の学問を教授し、学術的な研究を指導して、研究開発能力、問題解決力を備え、広く産業の発展や地域産業の活性化に寄与することのできる高度な技術者を育成します。本専攻科の修了生には、学士の学位取得の途が開かれており、次代の産業技術を支える実力と技術開発の先導性を培う教育を推進します。

(1) 機械システム工学専攻

専攻科課程では、準学士課程で身につけた専門の基礎をもとに、さらに2年間精深で広範な専門教育を施すことにより、自らが技術的課題を発見し解決することができる柔軟な思考力・創造力および鋭い洞察力を持つ開発型技術者の養成を目指している。座学において、専門分野をより深めた応用的内容を教授し、より高度で幅広い理論と技術を修得させるとともにその科学的思考力を養っている。

専攻科ゼミナールや2年間の専攻科特別研究において、少人数教育による自発的学習を促し、さらに調査・研究能力を高め、複合的視点で自ら問題を発見し、機械システムを解析的・総合的に解決できる開発型技術者を養成している。また、プレゼンテーション形式の授業を一部で取り入れ、コミュニケーション力のさらなる向上をはかっている。これらの総まとめとして、各種の学会で多くの機械システム工学専攻学生が発表している。

(2) 電気電子工学専攻

高専の電気工学、電子工学系学科の卒業生に対して、さらに2年間精深かつ広範な専門教育を行う

ことにより、独創性を持つ研究開発技術者の育成を目指している。

最近の電気電子工学分野のめざましい発展は、私たちの生活を豊かで便利なものにしてきた。その中心をなすエネルギーや情報関連の新技术の開発はますます重要性を増してきている。また、それらを支える材料、半導体、計測、制御などの技術分野の開発も重要である。本専攻では、このような分野に関連する科目を適宜配置し、高専本科での教育を基礎として、より高度な内容を教授する。

また、実験やゼミナール等を取り入れ、実践的教育も重視している。さらに基礎的な技術教育のうえに、先端技術に関する研究テーマを個別に設定し、研究の計画立案から学会での成果報告まできめ細かい指導を行うことにより、研究開発能力の育成をはかっている。

（３）応用化学専攻

応用化学専攻のカリキュラムは、準学士課程においてコアとした５つの専門分野（有機化学、無機化学・分析化学、物理化学、化学工学、生物工学）の学習教育目標をより高いレベルで到達させるよう、応用力の向上や他教科との関連を意識した専門性豊かな内容となっている。また、少人数でのゼミナールによって英語論文に馴染ませたり、２年間にわたる専攻科特別研究の成果を関連学会や産金学官技術フォーラムで発表させたりするなどして、研究開発能力とプレゼンテーション能力の向上に努めている。

さらに、一般教養科目の受講による幅広い分野の知識の修得、および専攻科特別実習（インターンシップ）による企業や大学における先端技術に触れることができるカリキュラム編成となっている。これらを通じて専攻科の養成すべき人物像（複合的視点で創造、問題発見、問題解決ができる創造性豊かな開発型技術者）の実現を目指している。

（４）都市工学専攻

都市工学専攻 (Department of Civil Engineering) では、都市（まち）の「環境」やその保全、人々が暮らす安全・快適で美しい「都市空間」をデザインする方法、災害から都市を守る「防災」などの応用的な工学について学ぶ。

神戸市は緑豊かな六甲山系を抱え、温暖な瀬戸内海に面し、東西に長い地域に街が形成されている。21 世紀に向けた都市（まち）造りには、恵まれた自然環境を十分に活用する必要がある。自然環境は土砂災害、地震、高潮などの自然災害の源ともなり、また急速な都市化は新たな都市災害を生じることにもなる。今後は防災機能を備え、少子・高齢化社会、福祉社会に対応した豊かな自然環境を織り込んだ都市（まち）造りが期待されている。

従来の土木工学、環境工学を基礎とし本科で修得した専門的知見に加え、防災、水圏・地圏における環境保全、自然や市民に配慮した街作りに関連する教育・研究を行うことにより、自ら課題の発見・解決できる技術者の育成を目指している。

1－4 養成すべき人材像

専門分野の知識・能力を持つと共に他分野の知識も有し、培われた一般教養のもとに、柔軟で複合的視点に立った思考ができ、問題発見、問題解決ができる創造性豊かな開発型技術者を養成する。

（１）機械システム工学専攻

数学、自然科学、情報処理技術、計測技術、電気電子応用技術、加工技術、設計法等の基礎技術を修得し、培われた一般教養のもと、設計や製作において複合的視点で創造、問題発見、問題解決ができる創造性豊かな開発型技術者を養成する。

（２）電気電子工学専攻

数学、自然科学、情報処理技術、電磁気学、電気回路、エレクトロニクス、実験等により専門技術を修得し、培われた一般教養のもと、柔軟な思考ができ、複合的視点で創造、問題発見、問題解決ができる創造性豊かな開発型技術者を養成する。

(3) 応用化学専攻

数学、自然科学、情報処理技術に加え、物質の基本を十分理解し、新しい物質作りに応用できる専門学力を修得し、培われた一般教養のもと柔軟な思考ができ、複合的視点で創造、問題発見、問題解決ができる創造性豊かな開発型技術者を養成する。

(4) 都市工学専攻

数学、自然科学、情報処理技術、構造力学、水理学、土質力学、計画、環境に関連する専門技術に重点を置き、培われた一般教養のもと、柔軟な思考ができ、複合的視点で課題の発見、問題解決ができる創造性豊かな開発型技術者を養成する。

1-5 修了時に身につけるべき学力や資質・能力（学習・教育目標）

(A) 工学に関する基礎知識と専門知識を身につける。

- (A1) 数 学 工学的諸問題に対処する際に必要な線形代数、微分方程式、ベクトル解析、確率統計などの数学に関する知識を身につけ、問題を解くことができる。
- (A2) 自 然 科 学 工学的諸問題に対処する際に必要な力学、電磁気学、熱力学などの自然科学に関する知識を身につけ、問題を解くことができる。
- (A3) 情 報 技 術 工学的諸問題に対処する際に必要な情報技術に関する知識を身につけ、活用することができる。
- (A4) 専 門 分 野 各専攻分野における工学基礎と専門分野の知識・技術を身につけ、活用することができる。

(B) コミュニケーション能力を身につける。

- (B1) 論理的説明 技術的な内容について、図、表を用い、文章及び口頭で論理的に説明することができる。
- (B2) 質 疑 応 答 自分自身の発表に対する質疑に適切に応答することができる。
- (B3) 日 常 英 語 日常的な話題に関する英語の文章を読み、聞いて、その内容を理解することができる。
- (B4) 技 術 英 語 英語で書かれた技術的・学術的論文の内容を理解し、日本語で説明することができる。また、特別研究等の研究に関する概要を英語で記述することができる。

(C) 複合的な視点で問題を解決する能力や実践力を身につける。

- (C1) 応 用 ・ 解 析 工学基礎や専門分野の知識を工学的諸問題に応用して、得られた結果を的確に解析することができる。
- (C2) 複 合 ・ 解 決 与えられた課題に対して、工学基礎や専門分野の知識を応用し、かつ情報を収集して戦略を立てることができる。また、複合的な知識・技術・手法を用いてデザインし工学的諸問題を解決することができる。
- (C3) 体 力 ・ 教 養 技術者として活動するために必要な体力や一般教養を身につける。
- (C4) 協 調 ・ 報 告 特定の問題に対してグループで協議して挑み、期日内に解決して報告書を書くことができる。

(D) 地球的視点と技術者倫理を身につける。

- (D1) 技 術 者 倫 理 工学技術が社会や自然に与える影響を理解し、また、技術者が負う倫理的責任を自覚し、自己の倫理観を説明することができる。
- (D2) 異文化理解 異文化を理解し、多面的に物事を考え、自分の意見を説明することができる。

※「(A4) 専門分野」の専攻別細目

(1) 機械システム工学専攻

- ① 機械工学的諸問題に対処する際に必要な材料に関する基礎知識を身につけ、活用できる。
 - ・ 機械工学的諸問題に対処する際に必要な材料および材料力学に関する基礎知識と発展的な知識を身に付け、活用できる。
- ② 機械工学的諸問題に対処する際に必要な熱力学および流体力学に関する基礎知識を身につけ、活用できる。
 - ・ 熱流体に関する各種物理量の計測法を理解し、実際に計測し評価できる。
 - ・ 理想化された熱流体および実際の熱流体の移動を数式で表し、それを用いて熱流動現象を説明できる。
 - ・ 各種熱機関の特性を理解し、エネルギー変換技術における性能改善のための指針を提案できる。
- ③ 機械工学的諸問題に対処する際に必要な計測および制御に関する基礎知識を身につけ、活用できる。
 - ・ 研究開発、応用設計、製造等を行う際に必要な計測の基礎知識を身につけ活用できる。
 - ・ 研究開発、応用設計、製造等を行う際に必要な計測の専門知識を身につけ活用できる。
 - ・ 研究開発、応用設計、製造等を行う際に必要な制御の専門知識を身につけ活用できる。
- ④ 機械工学的諸問題に対処する際に必要な生産に関する基礎知識を身につけ、活用できる。
 - ・ 工業材料、先端材料の成形加工法に関する専門知識を修得し、材料加工や生産加工に活用できる。
 - ・ 切削加工に関する専門知識や先端加工技術を修得し、生産技術として応用できる。
 - ・ 生産に関する専門的かつ総合的な知識および技術を修得し、生産システムの構築ができる。

(2) 電気電子工学専攻

- ① 電気電子工学分野に関する基礎知識を身につけ、活用できる。
 - ・ 電磁気学に対する理解をより深め、応用力を養う。
 - ・ 高電圧の発生方法ならびに測定方法を理解することができる。
 - ・ 集中・分布定数回路をコンピュータを用いて解析することができる。
 - ・ 離散フーリエ変換、逆離散フーリエ変換を理解し、応用することができる。
- ② 物性や電子デバイスに関する基礎知識を身につけ、活用できる。
 - ・ 光の波動的性質、および光を導波する光ファイバの原理、特性、応用などを理解する。
 - ・ 光デバイスの原理や応用技術を理解する。
 - ・ 人間生活と照明及び環境と照明について理解する。
 - ・ プラズマについての基礎特性や計測技術について理論する。
- ③ 計測や制御に関する基礎知識を身につけ、活用できる。
 - ・ 光センサの原理を理解し、具体例の問題解決能力を身につける。
 - ・ 放射線計測の手法理解し、医療機器などの産業応用に関して学習する。
 - ・ 最適制御、ロバスト制御などの設計理論を理解する。
- ④ 情報や通信に関する基礎知識を身につけ、活用できる。
 - ・ デジタル信号処理の基礎的な考え方を理解する。
 - ・ 一般的なアルゴリズムやそれを実現するためのデータ構造を理解する。

- ・画像処理の基礎及びコンピュータグラフィックスの基礎を理解する。

⑤ エネルギー、電気機器、設備に関する基礎知識を身につけ、活用できる。

- ・電力変換装置や電力用デバイスの基礎を理解する。
- ・現状のエネルギー変換の基本をなす熱力学について理解することができる。

(3) 応用化学専攻

① 有機化学関連分野に関する基礎知識を身につけ、活用できる。

- ・有機反応機構を説明できるとともに、有機金属錯体の構造や反応を理論的に説明できる。
- ・高分子化学の基本知識をより理解を深めるとともに、機能性高分子材料についても説明できる。

② 無機化学・分析化学関連分野に関する基礎知識を身につけ、活用できる。

- ・無機化学物質の各種合成法の特徴を説明できる。
- ・無機材料合成の基礎となる相平衡や錯体の合成法を説明できるとともに、無機化学物の潜在危険性を理解し安全に取り扱える。
- ・大気浮遊物質の性状や環境に対する影響など大気環境に関する諸問題の概要を説明できる。

③ 物理化学関連分野に関する基礎知識を身につけ、活用できる。

- ・原子・分子の電子状態に起因する現象、分光学等が定性的に理解できる。
- ・化学反応の基礎理論を説明できるとともに、量子化学計算を用いて遷移状態の構造を予測できる。
- ・電気化学反応の基礎理論を説明できるとともに、その応用例の概要を説明できる。

④ 化学工学関連分野に関する基礎知識を身につけ、活用できる。

- ・化学工学単位操作の基礎理論の理解を確実なものにするとともに、それを応用した各種装置の概要を説明でき、装置設計に活かせる。
- ・熱力学のうち化学技術者に必要な分野に関する熱力学計算ができる。

⑤ 生物工学関連分野に関する基礎知識を身につけ、活用できる。

- ・生物工学の基礎を理解しながら分子生物学と遺伝子工学の基礎と応用について理解できる。

(4) 都市工学専攻

① 設計に関する基礎知識を身につけ、活用できる。

- ・構造物の設計に関する製図法を修得し、設計に活用できる。
- ・各種調査・分析手法ならびに構造物の設計手法を理解し、設計に活用できる。

② 力学に関する基礎知識を身につけ、活用できる。

- ・構造力学、水理学、土質力学に関する諸定理を理解し、応用的解析に活用できる。

③ 施工に関する基礎知識を身につけ、活用できる。

- ・コンクリート構造および地盤基礎調査法に関する理論を理解し、施工に活用できる。

④ 環境に関する基礎知識を身につけ、活用できる。

- ・自然災害や環境問題のしくみを理解し、社会基盤整備に活用できる。
- ・修得した工学的技術を用いて、各種問題の具体的な解決方法を提示できる。

1－6 教育課程

教育課程は単位制を基本とし、各科目の講義は原則として学期毎に完結するため、2年間の教育期間は、15週を単位とする4学期に分割されています。

1－7 学年・学期

(1)	学 年		4月1日	～	翌年3月31日
(2)	学 期	(前期)	4月1日	～	9月30日
		(後期)	10月1日	～	3月31日

1－8 休業日

- (1) 国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日
- (2) 日曜日及び土曜日
- (3) 学年始休業 4月 1日 ～ 4月 7日
- (4) 夏季休業 8月12日 ～ 9月27日
- (5) 冬季休業 12月25日 ～ 1月 5日
- (6) 学年末休業 3月20日 ～ 3月31日
- (7) 前各号に掲げるもののほか、教育委員会が定める日

1－9 記念日

- (1) 創立記念日 6月 3日

2. 履修に関すること

専攻科では、一般の大学と同じように単位制を基本としています。専攻科を修了するためには62単位以上を修得する必要があります。そのため、本校では、79～87単位の科目（特別研究、実験を含む）を開設しています。このうち、必修科目は専攻にかかわらず必ず履修しなければなりません。したがって、学生諸君は、修了するまでにどの科目を修得すべきかを選択しなければなりません。また、選択した科目を受講するためには、受講申請を行う必要があります。

以下にその概要と手続きについて述べます。

2-1 科目の単位と時間数

専攻科のカリキュラムは「一般教養科目」と、専門共通科目及び専門展開科目の「専門科目」から成っています。各授業科目の履修は単位制により実施しており、講義、演習、実験、実習により行われます。45分を1単位時間として、次の基準により単位数を計算します。

講義科目 半期毎週2単位時間の授業で2単位
(上記の講義以外に60単位時間の自己学習が必要)

演習科目 半期毎週2単位時間の授業で1単位
(上記の講義以外に30単位時間の自己学習が必要)

実験・実習科目 半期毎週3単位時間の授業で1単位

特別実習 (国内) 就労日数15日以上かつ総就労時間120時間以上をもって2単位
(国外) 就労日数10日以上かつ総就労時間80時間以上をもって2単位

このように単位時間が科目によって異なるので注意してください。コミュニケーション英語、専攻科ゼミナールI、II、メカニカルエンジニアリング演習及び専攻科特別研究I、IIは「演習科目」、エンジニアリングデザイン演習は「実験・実習科目」、他の科目は「講義科目」に区分します。専攻科特別実習(インターンシップ)は、夏季休業中、冬季休業中等に企業等に派遣し実施します。

2-2 受講手続

授業を履修するには「履修届」を学生係が指定する日時までに提出しなければなりません(令和2年度から、履修届はWEB申請となりました)。選択科目の中からどの科目を履修するかは、特別研究担当教官および専攻主任の指導に従い、各自で履修計画をたて決定してください。

2-3 試験と単位の認定

試験は、原則として授業の終了する学期末に行われます。試験の実施期日・時間等は、そのつど校内メール及び担当教官から連絡します。合格とならなかった科目のうち、修得する必要がある科目(必修科目)は、原則として再受講しなければなりません。 授業科目の単位認定(試験等)については、授業科目担当教官が行います。

2-4 専攻科修了要件

- (1) 専攻科を修了するためには、62単位以上(一般科目8単位以上、専門科目46単位以上)を修得しなければなりません。
- (2) 大学で修得した単位については、申請により16単位(ただし、専攻に係る科目以外の科目は8単位)を限度に本校専攻科での修得単位として認定されます。すなわち、この加算後の修得単位数が62単位以上あれば専攻科を修了することができます。

(3) 他専攻の専門展開科目を履修し、単位を取得することができます。ただし、当該専攻の修了要件の単位に含めることができるのは6単位までです。

2-5 修業年限

専攻科の修業年限は2年で、4年を超えて在学することはできません。
ただし、休学期間は在学期間に含まれません。

2-6 学位（学士号）の取得

学位を取得するためには、本科（4、5年）と専攻科において、学士課程4年間に相当する学修を体系的に履修し、かつ、大学改革支援・学位授与機構の定める修得単位に関する基準を満たしているかを審査されます。

→ 修得単位について審査されます。

学修総まとめ科目（特別研究Ⅱ）において、学士課程4年間に相当する学修の総括が行われ、学士の学位の授与に値する学修の成果が得られているかを審査されます。

→ 学修総まとめ科目の「履修計画書」および「成果要旨」を提出します。

学位授与申請は、修了見込み年度の10月に必要書類一式と学位審査手数料を添えて大学改革支援・学位授与機構に申請することになります。学修総まとめ科目の単位取得後、必要書類一式を再度大学改革支援・学位授与機構に申請することになります。

なお、単位修得見込みで申請した科目については、修得後、速やかに単位修得証明書を提出しなければなりません。

取得できる学位は、「学士（工学）」です。

* 1 大学改革支援・学位授与機構

国立学校設置法（昭和24年法律第150号）に基づき、平成3年7月1日に設置された国の機関である大学評価・学位授与機構を前身とし、平成28年4月1日付けで国立大学財務・経営センターと統合して設立されました。「学校教育法に定めるところにより、学位（学士、修士、博士）を授与すること。大学等の教育研究活動等の状況についての評価に関する調査研究及び学位の授与を行うために必要な学習の成果の評価に関する調査研究を行うこと。」などを目的としています。

* 2 学校教育法（昭和22年3月31日法律第26号）第104条 第4項第1号 （旧 第68条の2 第4項第1号）

〔抜 粋〕 短期大学若しくは高等専門学校を卒業した者又はこれに準ずる者で、大学における一定の単位の修得又はこれに相当するものとして文部科学大臣の定める学習を行い、大学を卒業した者と同等以上の学力を有すると認める者 「学士」

* 3 学位規則（昭和28年4月1日文部省令第9号）第6条第1項

〔抜 粋〕 法第68条の2第3項の規定による同項第1号に掲げる者に対する学士の学位の授与は、大学改革支援・学位授与機構の定めるところにより、高等専門学校を卒業した者で、高等専門学校に置かれる専攻科のうち大学改革支援・学位授与機構が定める要件を満たすものにおける、一定の学修を行い、かつ、大学改革支援・学位授与機構が行う審査に合格した者に対し行うものとする。

3. 大学での科目の受講及び単位取得に関すること

専攻科を修了するためには、本校専攻科が開設した科目の中から62単位以上を修得する必要があります。その62単位のうち、他の大学との交流を図り広く教養を身につける観点から、学園都市単位互換講座で修得した単位についても、16単位を限度に本校専攻科での修得単位として認定されます。ただし、専攻に係る科目以外の科目については、8単位を越えない範囲で認定されます。

3-1 学園都市単位互換講座の履修について

学園都市および周辺にある7つの大学等「流通科学大学、神戸市外国語大学、兵庫県立大学神戸学園都市キャンパス、神戸芸術工科大学、兵庫県立大学明石キャンパス、神戸市看護大学、神戸市立工業高等専門学校」がお互いに提供した授業科目を学習したことについて、それぞれ所属する学校（神戸高専）における履修とみなし、単位の修得を認定する制度です。

学園都市単位互換講座には、①UNITY（学園都市駅前「ユニバープラザビル」）で時間外（原則として18:15～19:45）に開講される『特別科目』と、②各大学等に行き履修する『学内提供科目』の2種類あります。なお、履修の可否については開設大学等に権限がありますので、履修申請しても履修が許可されるとは限りません。

I. 申込者の資格

- (1) 神戸研究学園都市大学連絡協議会に加入している大学及び高等専門学校専攻科に所属する学生で所属大学等が許可すれば、誰でも受講資格があります。ただし、科目の性格から既履修科目や学年等の条件がある場合があります。
- (2) 所属大学により、単位認定可能な講義の種類や単位数等が異なります。詳細は学生係に問い合わせください。

II. 出願方法等

- (1) 学生係の窓口で、毎年3月下旬の所定の期間に受け付けます。学生係の指示に従って手続きを行ってください。
- (2) 提出書類は、「学園都市単位互換講座出願票」のみです。1科目につき1枚記入してください。（2科目以上履修する方は、出願票をコピーしてください）
- (3) 受講料は無料です。

III. 履修許可及び履修手続き

- (1) 科目開設大学等は、学園都市単位互換講座出願票に基づき選考を行います。
- (2) 選考結果は、4月中旬に学生係を通じて連絡します。
（※定員等の都合により許可されない場合があります。）
- (3) 前期については、履修者の確定が授業開始後になりますので、注意してください。
- (4) 科目によっては科目開設大学で別の手続きが必要な場合があります。この場合は、指示に従って手続きを行ってください。

IV. 身分・成績等の取扱い

- (1) 履修を許可された学生は、科目開設大学の「特別聴講学生」となります。
- (2) 講義を受ける時の注意や試験の実施方法等は、科目開設大学の指示に従ってください。
- (3) 単位の認定や成績は、学生係を通じて連絡します。

V. 開講科目

- (1) 詳細は単位互換講座募集ガイドを参照してください。
- (2) 本校開講科目は、専攻科での単位であり、大学での単位とは認定されませんので注意してください。

《特別科目》

- U N I T Y（学園都市大学共同利用施設）の教室で放課後、開講される科目です。
- 開講期間・科目・時間割等は「単位互換講座募集ガイド」を参照してください。
- 開講期間は、所属大学(神戸高专 専攻科)と異なりますので注意してください。

《学内提供科目》

- 開講している大学のキャンパスで履修する科目です。
- 講義の期間や時間、休講基準については、科目開設大学の規定によります。
- 提供科目・開講期間・時間割等は「単位互換講座募集ガイド」及び 3月末に配布する「単位互換講座時間割」を参照してください。
- 開講時間は通常の授業時間帯（9:00～16:20）の間になります。

※単位互換講座 休講等の連絡は、U N I T Y 掲示板 及び 専攻科棟掲示板・校内E-メールで、また、科目開設大学の掲示板で確認してください。

4. 学位授与申請に関すること

4-1 学位授与制度とは

短期大学及び高等専門学校卒業者など、高等教育機関において一定の学習を修め、その「まとまりのある学修」の成果をもとに、さらに大学の科目等履修生制度などを利用して所定の単位を修得し、かつ大学改革支援・学位授与機構が行う審査の結果、大学卒業者と同等以上の学力を有すると認められた者に対して、学士の学位が授与されます。

本校の専攻科は、大学教育に相当する水準の教育を行っていることを大学改革支援・学位授与機構が認定した専攻科（認定専攻科）であり、当専攻科において修得した単位は基礎資格を有する者に該当した後に修得した単位として使用することができます。ただし、**学園都市単位互換講座で履修・修得した科目は学位申請の単位として認定されていません。学位申請の単位として認定されるのは、所属する専攻の科目表に記載された科目のみとなりますので、各自責任をもって確認して下さい。**

なお、学位授与申請は、個人で必要書類を作成しますが、申請は学校から一括して行いますので、期限を守ってください。学位授与に関する詳細な情報は、大学改革支援・学位授与機構のwebページ (<http://www.niad.ac.jp/>) を参考にしてください。また、しおりの**2-6 学位（学士号）の取得を参照して下さい。**

4-2 学位授与までの主なスケジュール

■専攻科2年

4月	専攻科特別研究II 履修 第1回学位授与申請ガイダンス
8月	第2回学位授与申請ガイダンス
9月	学位授与電子申請（各自でWeb入力） 学修総まとめ科目 履修計画書 作成（A4 2ページ 2400～3000文字程度）
10月	学位授与申請書送付（学校一括で郵送）
2月	専攻科特別研究II 単位取得 学修総まとめ科目 成果報告書 作成（A4 2ページ 2400～3000文字程度） 成績証明書等送付（学校一括で郵送）
3月	学位記授与（修了式）

5. 学生生活に関すること

5-1 専攻科生の学生生活に関する注意点

- (1) 専攻科学生に関する諸規定は本科学生に準ずることを原則とします。
(※校則違反者は特別指導の対象となります)
- (2) 自動車、自動二輪車、原動機付自転車による通学は原則禁止です。ただし、特別な事情により乗り入れを必要とする場合は、「自動車乗入許可願」を各専攻主任経由で専攻科長に提出して許可を受けることができます。
- (3) 校内での喫煙は禁止です。
- (4) クラブ及び同好会に加入することができます。ただし、加入届をクラブ顧問へ提出すること。
- (5) 新たに必要となる規程や運用上の問題については、専攻科運営委員会において、検討・策定します。

5-2 専攻科生の研究活動に関する注意点

- (1) 校内における時間外の研究活動を希望する場合は、「施設・設備 時間外利用 許可願」を提出してください。指導教官不在での居残りはできません。
- (2) 指導教官の付き添いなしで校外での研究活動を希望する学生は、「学外実習届（研究用）」を提出し、所定の手続きをとってください。

6. 情報資産の取り扱いについて

学会発表や研究会参加など、研究活動においてパソコンやメモリーを持ち出す場合は、以下のことを厳守するようにしてください。

- (1) 情報資産を持ち出す場合は、事前に指導教官の許可を得る。
- (2) 情報資産が含まれているパソコンやメモリー、書類等は、盗難や紛失を絶対にしないよう細心の注意を払う。
- (3) 持ち出すパソコンやメモリー、書類等に含まれる情報は、必要最小限の情報に限定する。（研究活動において、不必要な情報は削除しておく。）
- (4) パソコンやメモリーには、必ずパスワードをかけて他者が自由に閲覧できないようにする。
- (5) パソコンやメモリーを持ち出す際、及び、持ち出しを終えた後には、必ずウィルスチェックを行う。
- (6) 本校で管理していないメモリー等を研究活動において使用する際は、ウィルスチェックを行ったあとに使用する。
- (7) パソコン等を紛失した場合、盗難された場合は、速やかに指導教官に連絡する。

7. 神戸市立工業高等専門学校専攻科特別実習要項

(専攻科の授業科目の履修等に関する規定第2条関係)

1. 目的

特別実習は、企業又は官公庁において技術体験を通じて実践的技術感覚を体得させるとともに、技術体験で得た学修成果を専攻科の修学に生かすことを目的とする。

2. 計画・実施

特別実習は、専攻主任を中心に計画し、校長の許可を得て実施するものとする。

3. 実施の期間

特別実習の期間は、国内で15日以上かつ120時間以上、国外で10日以上かつ80時間以上とする。

4. 経費

特別実習に要する費用は、原則として特別実習を行う学生（以下「特別実習生」という）の負担とする。

5. 実施責任者

特別実習を円滑に実施するため、専攻主任を実施責任者とする。

6. 指導教員の業務

指導教員は、専攻主任の指示のもとに、次の業務にあたる。

- (1) 特別実習生の受入先事業所等の選定
- (2) 特別実習生の受入先事業所等の実習指導者の指定
- (3) 特別実習生の受入先事業所等への配属
- (4) 特別実習内容、テーマ等に関する指導・助言
- (5) 特別実習における安全管理（傷害保険への加入指導を含む。）、就業心得等の事前指導
- (6) 特別実習中に発生した事故又は異常事態の処置及び報告
- (7) 特別実習生の受入先事業所等との連絡調整
- (8) その他必要な事項

7. 実地指導

専攻主任又は指導教員は、必要に応じ特別実習生に対し、受入先事業所等において実地指導を行うものとする。

8. 報告

特別実習生は、特別実習修了後直ちに、次に掲げる書類を指導教員、専攻主任及び専攻科長を経て校長に提出しなければならない。

- (1) 特別実習証明書（様式1）
- (2) 特別実習報告書（様式2）又は事業所等の書式により事業所等に提出した報告書の写
- (3) 特別実習日誌（様式3）

特別実習生は、専攻科が行う特別実習報告会において特別実習内容を発表しなければならない

9. 成績評価及び単位の認定

特別実習の成績の評価は、次によるものとする。ただし、第4条に定める特別実習期間を満了しない場合は、この限りでない。

- (1) 特別実習の成績は、前条に定める報告等に基づき総合的に判断し評価する。
- (2) 評価は、合格又は不合格とし、合格の場合は、特別実習の単位を認定する。
(雑則)

10. 改訂

この要項に定めるもののほか、特別実習に関し必要な要項は、専攻科長と専攻主任との協議を経て、校長が定めるものとする。

特別実習証明書

神戸市立工業高等専門学校長 様

事業所名 _____

責任者 職・名前 _____ 印 _____

下記のとおり当所において特別実習したことを証明します。

学 校	神戸市立工業高等専門学校 _____ 専攻 第 _____ 学年					
名 前		期 間	年 月 日 ~ 月 日			
特別実習 事業場			特別実習 _____ 日 _____ 時間 上記実習時間に休憩時間を 含む ・ 含まない (どちらかを○で囲んでください)			
特別実習 内 容						
概 要	評 価	☐ 優れている ☐ 良好 ☐ 普通 ☐ やや劣る ☐ 劣る				
	学習態度に についての 総合所見					
	出 欠 状 況	出 席	欠 席	遅 刻	早 退	
		日	日	回	回	
そ の 他 特 記 事 項	今後本人を指導する上での参考事項等					

特別実習報告書

神戸市立工業高等専門学校長 様

専攻 年 番

名 前 印

下記のとおり特別実習を終了しましたので報告します。

事業所名	
責任者名	
特別実習 事業場	
期 間	年 月 日 ～ 月 日 特別実習 _____日 _____時間
特別実習 内 容	

専攻	年	番
----	---	---

名 前 印

事業所名

※特別実習期間： 年 月 日 ～ 年 月 日 (日 時間)

[illegible]

専攻別シラバス

■一般教養科目

学年	選択／必修	科目名	担当教員	単位数	学期	ページ
1年	必修	現代思想文化論	松島 恒熙 助教	2	前期	AS-1
1年	選択	時事英語	上垣 宗明 教授	2	後期	AS-3
1年	選択	英語講読	平野 洋平 准教授	2	前期	AS-5
1年	必修	コミュニケーション英語	PILEGGI MARK 准教授	1	前期	AS-7
2年	選択	地域学	八百 俊介 教授	2	前期	AS-9
2年	選択	応用倫理学	松島 恒熙 助教	2	後期	AS-11
2年	選択	手話言語学	今里 典子 教授	2	前期	AS-13

■専門共通科目

学年	選択／必修	科目名	担当教員	単位数	学期	ページ
1年	必修	シミュレーション工学	藤本 健司 教授, 朝倉 義裕 教授	2	後期	AS-15
1年	選択	数理工学Ⅰ	菅野 聡子 教授	2	後期	AS-17
1年	選択	数理統計	小塚 みすず 准教授	2	前期	AS-19
1年	選択	量子物理	九鬼 導隆 教授	2	前期	AS-21
1年	選択	技術英語	瀬戸浦 健仁 准教授	2	後期	AS-23
2年	必修	工学倫理	伊藤 均 非常勤講師	2	前期	AS-25
2年	選択	数理工学Ⅱ	加藤 真嗣 准教授	2	前期	AS-27
2年	選択	数値流体力学	柿木 哲哉 教授	2	前期	AS-29

■専門展開科目

学年	選択／必修	科目名	担当教員	単位数	学期	ページ
1年	必修	専攻科ゼミナールⅠ	伊原 茂 教授, 鳥居 宣之 教授, 柿木 哲哉 教授, 上中 宏二郎 教授, 野並 賢 教授, 宇野 宏司 教授, 高科 豊 准教授, 田島 喜美恵 准教授, 小塚 みすず 准教授, 今井 洋	2	前期	AS-31
1年	必修	専攻科特別研究Ⅰ	伊原 茂 教授, 水越 睦視 教授, 鳥居 宣之 教授, 柿木 哲哉 教授, 上中 宏二郎 教授, 野並 賢 教授, 宇野 宏司 教授, 高科 豊 准教授, 田島 喜美恵 准教授, 小塚 みすず 准	7	通年	AS-33
1年	選択	専攻科特別実習	田島 喜美恵 准教授【実務経験者担当科目】	2	通年	AS-35
1年	選択	応用構造工学Ⅰ	伊原 茂 教授	2	前期	AS-37
1年	選択	応用構造工学Ⅱ	上中 宏二郎 教授	2	後期	AS-39
1年	選択	環境保全工学	宇野 宏司 教授【実務経験者担当科目】	2	後期	AS-41
1年	選択	応用水理学	宇野 宏司 教授	2	前期	AS-43
1年	選択	都市防災学	鳥居 宣之 教授, 宇野 宏司 教授	2	前期	AS-45
1年	選択	地盤基礎工学	野並 賢 教授【実務経験者担当科目】	2	前期	AS-47
1年	選択	地盤防災工学	鳥居 宣之 教授	2	後期	AS-49
1年	選択	交通計画	小塚 みすず 准教授	2	後期	AS-51
1年	選択	都市計画	今井 洋太 助教	2	前期	AS-53
1年	選択	応用材料学	水越 睦視 教授	2	後期	AS-55
1年	選択	コンクリート診断学	高科 豊 准教授	2	前期	AS-57
1年	選択	建築計画	田島 喜美恵 准教授	2	前期	AS-59
1年	選択	応用建築設計製図Ⅰ	田島 喜美恵 准教授	2	前期	AS-61
1年	選択	応用建築設計製図Ⅱ	田島 喜美恵 准教授	2	後期	AS-63
2年	必修	エンジニアリングデザイン演習	西田 真之 教授, 熊野 智之 准教授, 津吉 彰 教授, 笠井 正三郎 教授, 濱田 守彦 講師, 水越 睦視 教授【実務経験者担当科目】	1	後期	AS-65
2年	必修	専攻科ゼミナールⅡ	伊原 茂 教授, 鳥居 宣之 教授, 柿木 哲哉 教授, 上中 宏二郎 教授, 野並 賢 教授, 宇野 宏司 教授, 高科 豊 准教授, 田島 喜美恵 准教授, 小塚 みすず 准教授, 今井 洋	2	前期	AS-67

2年 必修 専攻科特別研究Ⅱ

伊原 茂 教授, 水越 睦視 教授, 鳥
居 宣之 教授, 柿木 哲哉 教授, 上
中 宏二郎 教授, 野並 賢 教授, 宇
野 宏司 教授, 高科 豊 准教授, 田
島 喜美恵 准教授, 小塚 みすず 准

8 通年 AS-69

科 目	現代思想文化論 (A Study of Modern Thinking and Culture)				
担当教員	松島 恒熙 助教				
対象学年等	全専攻・1年・前期・必修・2単位【講義】				
学習・教育目標	D2(100%)		JABEE基準	(a)	
授業の概要と方針	グローバル化の進行に伴い,アメリカをはじめとする西欧自由主義諸国の政治経済のシステムの支配が全世界に拡大する一方で,国家,民族,宗教,文化間においてこれまでにない新たな対立や格差が生じている.こうした対立や格差を解消するためには「地球全体」という視点が不可欠であろう.本講義ではこの「地球全体」がいかなる意味なのかを受講者全員で考察していく.				
	到達目標		達成度	到達目標別の評価方法と基準	
1	【D2】グローバル化の問題における「地球全体」という視点について,様々な倫理的対立の諸問題を通して理解する.				グローバル化の問題を「地球全体」という視点からどのように捉えているか,定期試験および授業レポートで評価する.
2	【D2】グローバル化の諸問題について,自分の意見を矛盾なく展開する.				グローバル化の諸問題について,「地球全体」という視点から自分の意見を矛盾なく展開できるか,定期試験および授業レポートで評価する.
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					
総合評価	成績は,試験50% 授業レポート50% として評価する.100点満点で60点以上を合格とする.				
テキスト	授業プリントを使用する.				
参考書	『本当にわかる現代思想』岡本裕一郎(日本実業出版社) 『突然な頭が鋭くなる思考実験』小川仁志(SBクリエイティブ) 他にも講義で随時紹介していく.				
関連科目	応用倫理学				
履修上の注意事項	予備知識は一切必要ないので,その都度のテーマについて真剣に考察していきましょう.				

授業計画(現代思想文化論)		
	テーマ	内容(目標・準備など)
1	グローバル化における哲学・倫理学	「グローバル化」とは何かについて,哲学的に考察する。
2	市場社会と正義	ジレンマ思考実験についてグループワークを行う。
3	カニバリズム	カニバリズムと生命倫理について学び,意見交換を行う。
4	マイノリティと平等	アファーマティブ・アクションの是非について考察する。
5	嘘と正義	嘘と正義についてカントの思想も参照しながら考察する。
6	文化とは	文化とは何か,異文化理解について考察する。
7	文化と国際問題	文化の違いから生じる国際問題について学び,倫理的に考察する。
8	タイムパラドックス	タイムパラドックスの問題を学び,その倫理的問題を考察する。
9	グローバル化と生命倫理(1)	生殖補助医療技術をビジネスとして行うことに是非について考察する。
10	グローバル化と生命倫理(2)	身体の「治療」ではなく,「改善」や「増強」を目的とするエンハンスメントの是非について考える。
11	心と人間	心とは何か,人間とは何かについて思考実験を用いながら考察する。
12	言語と人間	言語とは何かについて思考実験を用いながら考察し,国際社会の問題を議論する。
13	グローバル化と環境倫理	環境倫理について,思想家の議論も参照しながら考察する。
14	グローバル化における地球市民	グローバル化における地球市民とは何か,SDGsを参照しながら考察する。
15	まとめ	これまでの内容をまとめ,グループ対話を行う。
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		
備考	本科目の修得には,30 時間の授業の受講と 60 時間の事前・事後自己学習が必要である。 前期定期試験を実施する。	

科 目		時事英語 (English in Current Topics)		
担当教員		上垣 宗明 教授		
対象学年等		全専攻・1年・後期・選択・2単位【講義】		
学習・教育目標		B3(100%)		JABEE基準 (f)
授業の概要と方針		英字新聞を中心に、雑誌,www等を利用して、一般的な題材から科学技術等の専門的な話題に触れ、時事問題に対する関心を高める。海外だけでなく国内のニュースについても題材として扱う。最近の科学についての記事を読み、自分の研究と社会とのつながりについて考える学習を行う。視聴覚機器を用い海外のニュース番組などの聞き取り訓練も行う。		
	到達目標		達成度	到達目標別の評価方法と基準
1	【B3】時事英語を読解するのに必要な幅広い知識や技能を身につける。			時事英語読解に必要な知識や技能が向上しているかを定期試験で評価する。
2	【B3】必要とする情報を迅速に的確に入手できる読み方を身につける。			英語の新聞記事から、必要な情報を正確に入手する読み方をマスターしているかを定期試験で評価する。
3	【B3】オーセンティックな英語に触れ、必要な情報を正確に聞き取ることができる。			英語の聞き取り能力が向上しているかを、海外のニュース番組などを用い、定期テスト、演習で評価する。
4	【B3】記事に対しての自分の意見が正確に表現でき、他者と話し合いができる。			自分の意見を正確に表現でき、その内容について他者と話し合いができるかを、演習で評価する。
5				
6				
7				
8				
9				
10				
総合評価		成績は、試験80% 演習20% として評価する。到達目標1～3を期末試験80%,到達目標3・4を演習20%で評価する。100点満点で60点以上を合格とする。		
テキスト		プリント		
参考書		「理工系大学生のための英語ハンドブック」:東京工業大学外国語教育センター編(三省堂) 「バーナード先生のネイティブ発想・英熟語」:クリストファ・バーナード(河出書房新社)		
関連科目		本科目は、これ以外の英語科が開講する全ての科目に関連する。		
履修上の注意事項		英和,和英辞典を持参すること。		

授業計画(時事英語)		
	テーマ	内容(目標・準備など)
1	Introduction	シラバス等についての説明を行う。
2	National 1	国内の時事問題に関する英文の記事を読み,必要な情報を入手する読み方であるスキミングについての理解を深める。
3	National 2	国内の時事問題に関する英文の記事を読み,概要を把握するための読み方であるスキミングについての理解を深める。
4	Technology 1, Listening Exercise 1	科学技術に関する英文の記事を読み,1段落中の論理展開について学ぶ。また,聞き取り練習として,海外のニュース番組を取り上げ,Listening演習をする。
5	Technology 2	科学技術に関する英文の記事を読み,自分の意見を記述する。
6	World 1, Listening Exercise 2	最近の世界的な問題についての記事を読み,その記事の理解を深める。また,聞き取り練習として,世界的な問題に関する話題を取り上げ,Listening演習をする。
7	World 2	最近の世界的な問題についての記事を読み,自分の意見をまとめる。
8	Environment 1	環境に関する英文の記事を読み,段落のつながりについて理解する。
9	Environment 2	環境に関する英文の記事を読み,自分の意見を英語でまとめる。
10	Language 1	「英語」についての知識を深め,日本語と英語の違いについて日本語で討論する。
11	Language 2	第10回目で討論した内容を元に英文原稿を作成する。
12	洋画DVD視聴	オーセンティックな英語に触れるために,洋画DVDを視聴する。
13	洋画DVD視聴	第12回目の続き。
14	Education 1,Listening Exercise 3	教育問題についての記事を読み,理解を深める。また,聞き取り練習として,教育に関する話題を取り上げ,Listening演習をする。
15	Education 2	第14回目の記事について,自分の意見をまとめ,英語で記述する。
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		
備考	本科目の修得には,30 時間の授業の受講と 60 時間の事前・事後自己学習が必要である。 後期定期試験を実施する。学生の理解度により,取り扱う題材の順番を変更する。	

科 目		英語講読 (English Reading)		
担当教員		平野 洋平 准教授		
対象学年等		全専攻・1年・前期・選択・2単位【講義】		
学習・教育目標		B3(100%)		JABEE基準 (f)
授業の概要と方針		意見サポート型,パラグラフ並列型,直線型,マルチ展開型という大きく4つのパターンに分類できる構成で書かれた様々な英文エッセイを読み,英文読解のミクロ(文法・語法・構文)とマクロ(情報の流れ・パラグラフの役割・論理展開)に対する理解を深め,英文の論理的な読み方を学習する.特に実践的な読解訓練を通じて,「読む」ことに慣れ,身に着けた読解力を確認した上で,さらに英語活動に利用できる力を養う.		
	到達目標	達成度		到達目標別の評価方法と基準
1	【B3】様々な英文エッセイを読み,英文の論理構成を理解し読解できる.			様々な英文エッセイを読み,英文の論理構成を理解し読解できるかを定期試験で評価する.
2	【B3】文法・語法・構文・文構造を把握し,単文を正しく読解できる.			文法・語法・構文・文構造を把握し,単文を正しく読解できるかどうかを定期試験で評価する.
3	【B3】情報の流れ・パラグラフの役割・論理展開を学習し理解することができる.			情報の流れ・パラグラフの役割・論理展開を学習し理解することができるかどうかを定期試験で評価する.
4	【B3】学習した読解力を英語活動に利用することができる.			学習した読解力を英語活動に利用することができるかどうかを定期試験及び演習で評価する.
5				
6				
7				
8				
9				
10				
総合評価		成績は,試験80% 演習20% として評価する.到達目標1～4を試験,到達目標4を演習で評価する.100点満点で60点以上が合格.		
テキスト		Skills for Better Reading: Structures and Strategies <Advanced> Yumiko Ishitani (Nan'un-do) ハンドアウト(適宜配布する)		
参考書		特には挙げないが,日常から英語及び日本語で多様なものを読む機会をできるだけ多く持つように心がけてほしい.		
関連科目		本科目はこれ以外の英語科が開講する全ての科目に関連する.		
履修上の注意事項		英和辞書(電子辞書を含む)を持参すること.		

授業計画(英語講読)		
	テーマ	内容(目標・準備など)
1	イントロダクション	授業目的/授業の実施方法/評価の仕方について説明.英語力試し
2	意見サポート型(1)	ある意見を示し,それを正当化するための理由が列挙するタイプのエッセイを読み,意見サポート型の論理構成と本文中に登場する文法・語法・構文・文構造を学習する.
3	パラグラフ並列型(1)	ある現象を示し,なぜその現象が起きたのか,複数の可能性のある説明を紹介するタイプのエッセイを読み,パラグラフ並列型の論理構成と本文中に登場する文法・語法・構文・文構造を学習する.
4	直線型(1)	あるトピックについて,その時間的変遷を追っていくタイプのエッセイを読み,直線型の論理構成と本文中に登場する文法・語法・構文・文構造を学習する.
5	マルチ展開型(1)	パズルやクイズ,謎を提示し,それを解決していくタイプのエッセイを読み,マルチ展開型の論理構成と本文中に登場する文法・語法・構文・文構造を学習する.
6	意見サポート型(2)	ある社会現象と,その現象の社会的原因・背景が提示するタイプのエッセイを読み,意見サポート型の論理構成と本文中に登場する文法・語法・構文・文構造を学習する.
7	パラグラフ並列型(2)	なにか似ているものや事象を複数取り上げ,その類似点,相違点を論じていくタイプのエッセイを読み,パラグラフ並列型の論理構成と本文中に登場する文法・語法・構文・文構造を学習する.
8	直線型(2)	あるトピックについて,その過程を説明していくタイプのエッセイを読み,直線型の論理構成と本文中に登場する文法・語法・構文・文構造を学習する.
9	マルチ展開型(2)	メディアでよく目や耳にする表現を取り上げ,その元来の用法・現在の使われ方・そこに至る背景を説明するタイプのエッセイを読み,マルチ展開型の論理構成と本文中に登場する文法・語法・構文・文構造を学習する.
10	意見サポート型(3)	身近な事象や社会問題を取り上げ,それが起きた原因が究明するタイプのエッセイを読み,意見サポート型の論理構成と本文中に登場する文法・語法・構文・文構造を学習する.
11	パラグラフ並列型(3)	現在議論をよんでいる問題を取り上げ,それに賛成する立場からの意見と反対する立場からの意見を紹介するタイプのエッセイを読み,パラグラフ並列型の論理構成と本文中に登場する文法・語法・構文・文構造を学習する.
12	直線型(3)	ボディとなるパラグラフが,原因→その結果,と進むタイプのエッセイを読み,直線型の論理構成と本文中に登場する文法・語法・構文・文構造を学習する.
13	マルチ展開型(3)	ある実験のやり方を詳述し,その結果から何が言えるのかを分析するタイプのエッセイを読み,マルチ展開型の論理構成と本文中に登場する文法・語法・構文・文構造を学習する.
14	パラグラフ並列型(4)	ある基準を設け,その基準に従って,何かをいくつかのグループに分類するタイプのエッセイを読み,パラグラフ並列型の論理構成と本文中に登場する文法・語法・構文・文構造を学習する.
15	マルチ展開型(4)	ある製品の詳細やその使い方を説明し,その製品の必要性やその製品にまつわる背景を詳述するタイプのエッセイを読み,マルチ展開型の論理構成と本文中に登場する文法・語法・構文・文構造を学習する.
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		
備考	本科目の修得には,30 時間の授業の受講と 60 時間の事前・事後自己学習が必要である. 前期定期試験を実施する.授業計画については,本科目を選択した学生の英語習熟度・状況等によって変更することがある.	

科 目		コミュニケーション英語 (Communication English)		
担当教員		PILEGGI MARK 准教授		
対象学年等		全専攻・1年・前期・必修・1単位【演習】		
学習・教育目標		B3(100%)		JABEE基準 (f)
授業の概要と方針		リスニングとスピーキングを主としたコミュニケーションの能力を高める授業.日常会話,さらにはディスカッションやプレゼンテーションのための基礎力を養成する.		
	到達目標		達成度	到達目標別の評価方法と基準
1	【B3】英語による基本的なコミュニケーションができる.			英語による基本的なコミュニケーションができるかどうかを演習で評価する.
2	【B3】さまざまなコミュニケーション場面の,英語話者の発音を聞き取ることができる.			授業中の質疑・応答を通して,学生のリスニング能力を演習及び中間試験・定期試験で評価する.
3	【B3】ペアワークやグループワークを通して基本的なディスカッションの仕方を理解できる			聞き取り能力,書き取り能力の成長を演習,及び中間試験・定期試験で評価する
4				
5				
6				
7				
8				
9				
10				
総合評価		成績は,試験70% 演習30% として評価する.到達目標 1 を演習で評価する.到達目標 2,3を試験及び小テストで評価する.100点満点で60点以上が合格.		
テキスト		「Coffee Shop Discussions: The Foundations of Good Discussion」: Alan Bossaer (南雲堂)		
参考書				
関連科目		本科目は,これ以外の英語科が開講するすべての科目に関連する.		
履修上の注意事項		英和・和英辞書(電子辞書を含む)を準備すること.Google Classroomに登録できる環境を準備すること.		

授業計画(コミュニケーション英語)		
	テーマ	内容(目標・準備など)
1	Orientation, Unit1 Welcome to Discussions class!	Introduction to the class, self-intros and textbook introduction.
2	Unit2 Western-style Hotel vs Japanese Inn Part1	Introduce key vocabulary, discussion topic, outline different points of view. Then, group work and discussions.
3	Unit3 Western-style Hotel vs Japanese Inn Part2	Go deeper into the discussion topic, confirm opinions and conclude discussion. Listening Quiz.
4	Unit4 e-Learning Part1	Introduce key vocabulary, discussion topic, outline different points of view. Then, group work and discussions.
5	Unit5 e-Learning Part2	Go deeper into the discussion topic, confirm opinions and conclude discussion. Listening Quiz.
6	Unit6 Clubs and Circles Part1	Introduce key vocabulary, discussion topic, outline different points of view. Then, group work and discussions.
7	Unit7 Clubs and Circles Part2	Go deeper into the discussion topic, confirm opinions and conclude discussion. Listening Quiz. Review for the midterm.
8	中間試験	Midterm test and assessment.
9	Unit8 Social Networking Part1	Go over midterm exams. Explain difficult areas. Then Introduce new key vocabulary, discussion topic, outline different points of view. Discuss
10	Unit9 Social Networking Part2	Go deeper into the discussion topic, confirm opinions and conclude discussion. Listening Quiz.
11	Unit10 Big City vs Small Town Part1	Introduce key vocabulary, discussion topic, outline different points of view. Then, group work and discussions.
12	Unit11 Big City vs Small Town Part2	Go deeper into the discussion topic, confirm opinions and conclude discussion. Listening Quiz.
13	Unit14 Students Working Part-Time	Introduce key vocabulary, discussion topic, outline different points of view. Then, group work and discussions.
14	Catch up day	Depending on the progress this day may be needed to help complete some units that could not be completed 100%.
15	Final exam review & Speaking & listening test	Review all discussion topics that will be on the final exam,also, speaking and listening assessment day.
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		
備考	本科目の修得には,30 時間の授業の受講と 15 時間の事前・事後の自己学習が必要である。 前期中間試験および前期定期試験を実施する.Syllabus may be adjusted due to unforeseen circumstances. Any changes will be clearly discussed with the students.	

科 目	地域学 (Regional Studies)				
担当教員	八百 俊介 教授				
対象学年等	全専攻・2年・前期・選択・2単位【講義】				
学習・教育目標	C3(100%)		JABEE基準	(a),(b)	
授業の概要と方針	地域社会集団について,組織構造・運営方法の現状と変遷を社会的背景からたどった後,機能の分類と実態,変化の内的・外的要因を考察する.最後に地域社会が今後果たすべき役割とその実現方法について検討する.				
	到達目標		達成度		到達目標別の評価方法と基準
1	【C3】地域社会への帰属問題,制度上の変遷の背景が理解できる				地域社会への帰属と派生する問題,制度上の変遷の社会的背景が時系列的に把握できているか定期試験,レポートで評価する,
2	【C3】地域社会の組織構造を理解し,機能を分析することができる				地域社会の組織構造が理解できているか,機能を分析することができるか定期試験,レポートで評価する
3	【C3】地域社会の機能の変化要因が理解できる				地域社会の機能変化に関する内的・外的要因が説明できるか定期試験,レポートで評価する
4	【C3】地域社会を活性化させる方策が理解できる				地域社会を活性化させる方策が提示できるか定期試験で評価する
5					
6					
7					
8					
9					
10					
総合評価	成績は,試験85% レポート15% として評価する.100点満点とし,60点以上を合格とする				
テキスト	プリント				
参考書	授業時に提示				
関連科目	なし				
履修上の注意事項	フィールドワークを含むレポートを課す				

授業計画(地域学)		
	テーマ	内容(目標・準備など)
1	地域社会集団の位置づけ	地域社会への帰属問題と性質の変化,その背景を解説する
2	地域社会の組織構造	地域社会集団の組織構造を解説する
3	地域社会の機能分類	現代の地域社会集団が果たしている機能を分類する
4	機能の変化と要因1	地域社会集団の機能が変化した要因を解説する.外的要因
5	機能の変化と要因2	地域社会集団の機能が変化した要因を解説する.情報の欠如
6	機能の変化と要因3	地域社会集団の機能が変化した要因を解説する.人材の不足
7	組織再編-人の確保1-	地域社会を活性化するための人材確保の手法を検討する.加入促進の方法
8	組織再編-人の確保2-	地域社会を活性化するための人材確保の手法を検討する.役員の確保
9	組織再編-人の確保3-	地域社会を活性化するための人材確保の手法を検討する.機能の拡大
10	活動と領域-場と空間1-	地域社会集団の活動を支える場所の確保について検討する.現状分析
11	活動と領域-場と空間2-	地域社会集団の活動を支える場所の確保について検討する.既存施設の利用
12	会計-財源と使い道1-	地域社会集団の活動を支える会計について考える.現状と問題点
13	会計-財源と使い道2-	地域社会集団の活動を支える会計について考える.収入拡大と問題点
14	地域社会の課題1	今後の地域社会の課題と解決方法
15	地域社会の課題2	今後の地域社会の課題と解決方法
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		
備考	本科目の修得には,30 時間の授業の受講と 60 時間の事前・事後自己学習が必要である. 前期定期試験を実施する.	

科 目	応用倫理学 (Applied Ethics)				
担当教員	松島 恒熙 助教				
対象学年等	全専攻・2年・後期・選択・2単位【講義】				
学習・教育目標	C3(50%), D1(50%)		JABEE基準	(a),(b)	
授業の概要と方針	現代の科学技術の諸問題には科学的解決のみならず,社会的合意が必要な倫理的問題も含まれている.この講義では生命倫理・環境倫理・情報倫理などの問題について学び,他者と協力しながら解決策を考える姿勢を身につける.				
	到達目標		達成度		到達目標別の評価方法と基準
1	【C3】新しい科学技術の社会的応用には倫理的問題の解決が不可欠であることを理解する.				応用倫理学の諸問題についての理解度を定期試験で評価する.
2	【D1】科学技術の諸問題を技術者の倫理的責任の問題として理解し,それについての自分の意見を矛盾なく展開できる.				応用倫理学の諸問題について技術者の視点からの考察力を授業レポートや定期試験で評価する.
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					
総合評価	成績は,試験50% 授業レポート50% として評価する.100点満点で60点以上を合格とする.				
テキスト	授業プリントを使用する.				
参考書	『教養としての応用倫理学』浅見昇吾ほか編(丸善出版) 他にも講義で随時紹介していく.				
関連科目	工学倫理,現代思想文化論				
履修上の注意事項	予備知識は一切必要ありません.他者と協力して学んでいきましょう.				

授業計画(応用倫理学)		
	テーマ	内容(目標・準備など)
1	応用倫理学とは?	応用倫理学と従来の倫理学のアプローチの相違を学び,身近なテーマを取り上げて倫理的ジレンマを考察する。
2	情報社会と情報倫理	情報社会における倫理について学び,自己の身近な問題と結びつけて考察する。
3	医療情報と情報倫理	医療情報とインフォームド・コンセントについて,グループワークを通して学ぶ。
4	生命倫理と自己決定権(1)	生命倫理における人間の尊厳について学ぶ。
5	生命倫理と自己決定権(2)	ケアの倫理や安楽死・尊厳死について学び,対話する。
6	市場社会と生命倫理	脳死と臓器移植について学び,対話する。
7	家族の倫理(1)	家族の在り方とジェンダーについて学ぶ。
8	家族の倫理(2)	出産にともなう倫理的諸問題について学び,人間とは何か考察する。
9	市民社会と技術倫理	技術とは何か考え,技術者倫理について学び,自己の身近な問題として考察する。
10	技術の発達と動物倫理(1)	肉食の問題と動物実験について学び,自己の身近な問題として考察する。
11	技術の発達と動物倫理(2)	種差別と動物倫理について学び,グループワークを行う。
12	グローバル化とビジネス倫理	異文化とビジネス,富の格差とは何かについて思考する。
13	自由主義と環境倫理	環境問題と世代間倫理について学び,自己の身近な問題として考察する。
14	民主主義と合意形成	分配と正義の問題について,思想家の議論を通して学ぶ。
15	まとめ	これまで扱った内容について全体でまとめを行う。
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		
備考	本科目の修得には,30 時間の授業の受講と 60 時間の事前・事後自己学習が必要である。 後期定期試験を実施する。	

科 目	手話言語学 (Sign Language Linguistics)				
担当教員	今里 典子 教授				
対象学年等	全専攻・2年・前期・選択・2単位【講義・演習】				
学習・教育目標	C3(80%), D2(20%)		JABEE基準	(a),(b)	
授業の概要と方針	日本固有の言語である「日本手話(JSL)」とはいかなる「ことば」なのだろうか？言語学の視点から音声言語と手話言語を比較しその特徴を学び,同時に少数言語使用者としてのろう者への理解を深める.さらに医療・福祉の現場で手話を使った基礎的なコミュニケーションが可能になることも目指す.				
	到達目標		達成度	到達目標別の評価方法と基準	
1	【C3】日本手話の特徴を言語学の視点から説明できる.			日本手話の特徴を言語学の視点から説明できるかを,定期試験で評価する.	
2	【C3】手話サイナーとしての聾者について説明できる.			手話サイナーとしての聾者について説明できるかどうかを,定期試験で評価する.	
3	【D2】医療・福祉現場での日本手話を使ったコミュニケーションができる.			医療・福祉現場での日本手話を利用したコミュニケーションができるかどうかを,定期試験,演習で評価する.	
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					
総合評価	成績は,レポート50% 演習50% として評価する.手話の特性上,JSLの習得度合いの確認は記述式のテストにはなじまないので,演習方式の評価方法については講義中に詳しく解説する.				
テキスト	プリント				
参考書	講義中に随時指示する.				
関連科目	5年人文科学特講(手話言語学)と関連する.				
履修上の注意事項	授業では積極的に発言する事と倫理上の問題にも留意する事が求められる.必ず基本的手話表現を習得する必要がある.				

授業計画(手話言語学)		
	テーマ	内容(目標・準備など)
1	手話を学ぶために	手話学習の注意事項説明, アンケートの実施. 手話単語と指文字の違いについて学習する.+指文字1+語彙1
2	聞こえのメカニズム	音声言語における発声と聞こえのメカニズムを学習する.+指文字2+JSL語彙2
3	少数言語サイナー	音声言語における発声と聞こえのメカニズムを学習する.+指文字2+JSL語彙2
4	手話言語の習得	ろう者と聴者の手話習得のパタンについて学習する. +指文字4+JSL語彙4
5	日本手話の歴史	日本手話の歴史を時代をさかのぼって学習する. +指文字5+JSL語彙5
6	言語の定義	言語の定義を確認し, 日本手話が独立した言語といえるのかどうかを考察する. +JSL語彙6
7	音韻論	JSLの音韻について学習する. +JSL語彙7
8	統語論1	JSLの文法(語順)について学習する.+JSL語彙8
9	統語論2	JSLの文法(動詞分類と類辞)について学習する.+JSL語彙9
10	統語論3	JSLの文法(NMM)について学習する. +JSL表現1
11	手話表現1	手話表現(自己紹介)の発表
12	情報保障1	ろう者への情報保障の手段(聴導犬・筆談・ノートテイク・字幕)について学ぶ. +手話表現2
13	情報保障2	ろう者への情報保障の社会システム(手話通訳・サポート技術)について学ぶ. +手話表現3
14	情報保障3	緊急対応の方法について学ぶ. +シチュエーション会話
15	手話表現2	シチュエーション会話の発表
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		
備考	本科目の修得には, 30 時間の授業の受講と 60 時間の事前・事後自己学習が必要である。 中間試験および定期試験は実施しない。	

科 目		シミュレーション工学 (Simulation Engineering)			
担当教員		藤本 健司 教授, 朝倉 義裕 教授			
対象学年等		全専攻・1年・後期・必修・2単位【講義・演習】			
学習・教育目標		A2(50%), A3(50%)		JABEE基準	(c),(d)1
授業の概要と方針		シミュレーションは,対象とする現象を定量的に解明し,その現象を利用したデバイスやシステムの解析,設計に役立てることを目的にしており,対象の理解に基づいた数学的モデルの作成,シミュレーション技法の修得が必要である.本講では,汎用言語などを実際に使いながらシミュレーションについて学ぶ.			
	到達目標			達成度	到達目標別の評価方法と基準
1	【A2】シミュレーションの概念を理解し,シミュレーションを適切に行う事ができる.				授業の最後に出す課題レポートの内容により評価を行う.
2	【A2】数学や,物理学の有名な事象,現象に対してシミュレーションを行い解析することができる.				数学や,物理学の有名な事象,現象に対してシミュレーションを行っているか課題レポートの内容で評価する.
3	【A3】各自でテーマを設定し,そのテーマに対してシミュレーションを行い解析する事ができる.				自分の研究分野においてテーマを設定し,シミュレーションを行えるかどうか,自由課題レポートで評価を行う.
4	【A3】自分の研究分野に関してのシミュレーション結果の説明,及び討議ができる.				プレゼンテーションの資料,内容,討議により評価する.
5					
6					
7					
8					
9					
10					
総合評価		成績は,レポート30% プレゼンテーション40% 自由課題レポートの内容30% として評価する.100点満点で60点以上を合格とする.なお,本講義は,シミュレーションを行い,発表することを目的としているため試験は行わず,レポートと13週目に提出する自由課題レポート,プレゼンテーションで評価を行うこととする.			
テキスト		「Scilabプログラミング入門」上坂吉則著(牧野書店)			
参考書		「Scilab/Scicosで学ぶシミュレーションの基礎—自然・社会現象から,経済・金融,システム制御まで」望月 孔二 著(カットシステム)			
関連科目		本科においてM,E,C,S科は情報処理,D科はソフトウェア工学の知識を身につけている事が重要である.			
履修上の注意事項		今年度はAM1とAS1を合同した1グループと,AE1とAC1を合同した1グループの2つのグループに分け授業を行う.AE1とAC1のグループを藤本が,AM1,AS1のグループを朝倉が担当する.本科目は,最終的に各学生が自分自身でテーマを設定し,シミュレーションを行い,発表することを目的としているため試験は行わず,レポートと自由課題レポート,プレゼンテーションで評価を行うこととする.			

授業計画(シミュレーション工学)		
	テーマ	内容(目標・準備など)
1	シミュレーションの概要	シミュレーション技術の歴史や、シミュレーションの定義、そして、どのように使用されているかについて説明を行う。
2	シミュレーションの目的と手順	シミュレーションを行う目的と、シミュレーションを行う上での利用方法や解析方法について説明する。
3	確率的モデル(モンテカルロ法)	確率的モデルの代表でもあるモンテカルロ法について簡単な例を挙げ説明を行う。
4	各種シミュレータによる事例紹介	各種シミュレータによるシミュレーションの事例を紹介する。
5	Scilabの学習1(簡単な計算, グラフィック)	シミュレーションに用いるソフトとして有名なScilabの使い方を学習する。この週では簡単な計算やグラフィックの表示方法について学習する。
6	Scilabの学習2(方程式の解法, 微分, 積分)	第5週に続き, Scilabの使い方を学習する。この週では方程式の解法, 微分, 積分の解法について学習する。
7	Scilabの学習3(微分方程式の解法)	第5,6週に続き, Scilabの使い方を学習する。この週では微分方程式の解法について学習する。
8	Scilabの学習4(ベクトル, 行列)	第5,6,7週に続き, Scilabの使い方を学習する。この週ではベクトルや行列の扱い方について学習を行う。
9	Scilabの学習5(繰り返しと分岐, サブプログラム)	第5,6,7,8週に続き, Scilabの使い方を学習する。この週では繰り返しと分岐, 及びサブプログラムの概念について学習を行う。
10	Scilabによるシミュレーション	ランダムウォークなどを例に挙げ, 実際に各自でScilabを使用しシミュレーションを行う。
11	自由課題のプログラミング1	各自の研究分野に密接な現象について各自テーマを設定し, シミュレーションを行い, 結果をまとめる。
12	自由課題のプログラミング2	第11週の続き。
13	プレゼンテーション1	第11週と第12週に行ったシミュレーションの結果について3週に渡ってプレゼンを行う。
14	プレゼンテーション2	第13週と同じ
15	プレゼンテーション3	第13,14週と同じ
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		
備考	本科目の修得には, 30 時間の授業の受講と 60 時間の事前・事後自己学習が必要である。 中間試験および定期試験は実施しない。・課題を授業の最後に出題する。・プレゼンテーションを行う。	

科 目		数理工学 I (Mathematical Engineering I)		
担当教員		菅野 聡子 教授		
対象学年等		全専攻・1年・後期・選択・2単位【講義】		
学習・教育目標		A1(100%)	JABEE基準	(c),(d)1
授業の概要と方針		本講義では,導入として全微分方程式および3重積分について解説した後,偏微分方程式について講義する.物理現象を元に偏微分方程式を導出し,それらの解法について講義する.また,偏微分方程式を解く演習を行う.		
	到達目標	達成度	到達目標別の評価方法と基準	
1	【A1】全微分方程式が解ける.			全微分方程式が解けるかを試験で評価する.
2	【A1】1階偏微分方程式が解ける.			1階偏微分方程式が解けるかを試験およびレポートで評価する.
3	【A1】簡単な2階線形偏微分方程式が解ける.			簡単な2階線形偏微分方程式が解けるかを試験およびレポートで評価する.
4	【A1】波動方程式が解ける.			波動方程式が解けるかを試験で評価する.
5	【A1】熱伝導方程式が解ける.			熱伝導方程式が解けるかを試験で評価する.
6	【A1】ラプラス方程式が解ける.			ラプラス方程式が解けるかを試験で評価する.
7				
8				
9				
10				
総合評価		成績は,試験90% レポート10% として評価する.試験成績は中間試験と定期試験の平均点とする.100点満点で60点以上を合格とする.		
テキスト		「物理数学コース 偏微分方程式」:渋谷仙吉,内田伏一 共著(裳華房)プリント		
参考書		「フーリエ解析」:大石進一 著(岩波書店) 「フーリエ解析の基礎と応用」:倉田和浩 著(数理工学社) 「演習 微分方程式」:寺田文行 他 著(サイエンス社) 「キーポイント 偏微分方程式」:河村哲也 著(岩波書店) 「工学系のための偏微分方程式」:小出眞路 著(森北出版)		
関連科目		本科での数学I,数学II,応用数学,応用数学I,応用数学II		
履修上の注意事項		試験は筆記用具のみを持ち込み可として行う.		

授業計画(数理工学Ⅰ)		
	テーマ	内容(目標・準備など)
1	ガイダンス,復習	常微分方程式に関する復習を行う。
2	全微分方程式	全微分方程式について理解し,全微分方程式を解く。
3	多変数関数の積分	2重積分に関する復習を行い,3重積分の計算練習を行う。
4	偏微分方程式とその解法	簡単な偏微分方程式を変数変換により解く。
5	1階偏微分方程式	1階偏微分方程式の解法を理解し,1階偏微分方程式を解く。
6	2階線形偏微分方程式	簡単な2階線形偏微分方程式を求積法等により解く。
7	演習	1階偏微分方程式および2階線形偏微分方程式に関する演習を行う。
8	中間試験	中間試験を行う。
9	試験返却,波動方程式(変数分離法)	中間試験の答案を返却し,解答を解説する。また,波動方程式の変数分離解を求める。
10	波動方程式(一般解)	波動方程式の一般解を求める。
11	熱伝導方程式(I)	有限の棒における熱伝導方程式を解く。
12	熱伝導方程式(II)	無限長および半無限長の棒における熱伝導方程式を解く。
13	ラプラス方程式	ラプラス方程式を解く。
14	連立偏微分方程式	連立偏微分方程式を解く。
15	演習	波動方程式,熱伝導方程式,ラプラス方程式に関する演習を行う。
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		
備考	本科目の修得には,30 時間の授業の受講と 60 時間の事前・事後自己学習が必要である。 後期中間試験および後期定期試験を実施する。	

科 目	数理統計 (Mathematical Statistics)				
担当教員	小塚 みすず 准教授				
対象学年等	全専攻・1年・前期・選択・2単位【講義】				
学習・教育目標	A1(100%)		JABEE基準	(c),(d)1	
授業の概要と方針	工学の様々な場面でのデータの分析に必要な統計の基礎理論についての知識を深め,統計解析の手法について修得する.また,調査の企画設計,調査の実施,統計手法を用いた評価など,一連のプロセスを行うことで,理解を深める.				
	到達目標		達成度		到達目標別の評価方法と基準
1	【A1】データと実践的統計学の基本の理解				データの属性,標本と誤差,データの分布などの意味が理解できているか,レポート,定期試験および課題研究で評価する.
2	【A1】基本統計量と様々な確率分布についての理解				基本統計量についての基礎理論及びそれぞれの利用手法について理解できているか,レポート,定期試験および課題研究で評価する.
3	【A1】推測統計学の基本についての理解,並びに推定,検定法についての理解				正規分布,標本分布,仮説検定,区間推定,グループ間の比較,回帰分析等について理解できているか,レポート,定期試験および課題研究で評価する.
4	【A1】調査の企画・設計とデータ解釈についての理解				調査の企画・設計,調査実施,データ整理・集計,結果の解釈について理解できているか,レポート,定期試験および課題研究で評価する.
5					
6					
7					
8					
9					
10					
総合評価	成績は,試験70% レポート20% 課題研究10% として評価する.試験成績は定期試験の点数とする.総合成績100点満点で60点以上を合格とする.レポートおよび課題研究が未提出の場合は評価しない.				
テキスト	「統計学基礎」:日本統計学会(東京図書) 授業で配付するプリント				
参考書	「新編土木計画学」:西村昂・本多義明(オーム社) 「統計学II 推測統計学」:稲葉由之(弘文堂)				
関連科目	確率・統計(本科4年共通科目),土木計画学I(都市工学科4年科目)				
履修上の注意事項	全専攻学生共通で本科4年次の確率・統計の内容を理解・修得していることが前提となる.関数電卓を使用するので各自準備をすること.				

授業計画(数理統計)		
	テーマ	内容(目標・準備など)
1	統計とデータ(1)	統計学や統計の基本(データの分類,集計)について解説する。
2	統計とデータ(2)	統計の基本(データの整理,グラフ表現)について解説する。
3	記述統計手法	代表値,散布度,標本標準偏差,平均と標準偏差など基本統計量の基礎について解説する。
4	確率統計(1)	確率の考え方や確率分布について解説する。
5	確率統計(2)	確率変数の特性について解説する。
6	推定(1)	統計的推定について解説する。
7	推定(2)	統計的推定について解説する。
8	検定(1)	統計的検定について解説する。
9	検定(2)	統計的検定について解説する。
10	記述統計(1)	相関とその検定について解説する。
11	記述統計(2)	回帰分析について解説する。
12	記述統計(3)	属性相関とその検定について解説する。
13	課題研究(1)	課題に対する調査の企画・設計を行う。
14	課題研究(2)	統計解析の手法を用いてデータの収集,整理,集計,分析を行う。
15	課題研究(3)	統計解析の手法を用いてデータの収集,整理,集計,分析を行い,結果を資料にまとめ,広告する。
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		
備考	本科目の修得には,30 時間の授業の受講と 60 時間の事前・事後自己学習が必要である。 前期定期試験を実施する。	

科 目		量子物理 (Quantum Physics)					
担当教員		九鬼 導隆 教授					
対象学年等		全専攻・1年・前期・選択・2単位【講義】					
学習・教育目標		A2(100%)			JABEE基準	(c),(d)1	
授業の概要と方針		量子力学は現代物理学の基礎理論の一つであり、我々の生活を見渡しても、半導体に代表される電子部品や新材料のみならず、蛍光灯や白熱球といったものまでもが、きわめて量子的な現象の上に成り立っている。本講義では、量子力学の基礎を解説するとともに、変分法・摂動論といった近似法にも言及し、一通りの量子力学入門を行う。					
	到達目標			達成度		到達目標別の評価方法と基準	
1	【A2】黒体輻射と比熱理論、光電効果と電子線回折等から、古典物理学の限界、エネルギーが離散的であること、波動と粒子の二重性について説明できる。					中間試験とレポートで、黒体輻射、比熱理論、光電効果、電子線回折等を説明させ、古典物理学の限界、エネルギーが離散的であること、波動と粒子の二重性についての的確に説明できるかどうかで評価する。	
2	【A2】ハイゼンベルクの不確定性原理、ボルンの確率解釈、シュレディンガー方程式の解の性質や境界条件とエネルギーの関係を定性的に説明できる。					中間試験とレポートで、不確定性原理やボルンの確率解釈を含む、シュレディンガー方程式の解の性質等を説明させ、的確に説明できるかどうかで評価する。	
3	【A2】基本的な系（井戸型ポテンシャルや調和振動子等）の厳密解が求められ、また、零点エネルギーやトンネル効果等、量子力学特有の現象を説明できる。					中間試験と定期試験、レポートで、与えられた基本的な系の厳密解が求められるかどうかで評価する。	
4	【A2】水素型原子の主量子数、方位量子数、磁気量子数の意味を説明できる。					定期試験とレポートで、水素型原子中の電子の軌道について説明させ、量子数の意味と電子の軌道の形が的確に説明できるかどうかで評価する。	
5	【A2】摂動論の基本原則を説明できる。					定期試験とレポートで、摂動エネルギーが指示通り求められるかどうかで評価する。	
6	【A2】変分法の基本原則を理解し、ハートリー近似の意味を説明できる。					定期試験とレポートで、変分法かハートリー近似について説明させ、的確に説明できるかどうかで評価する。	
7							
8							
9							
10							
総合評価		成績は、試験90% レポート10% として評価する。中間・定期の2回の試験の単純平均を試験成績とする。総合成績100点満点中60点以上を合格とする。					
テキスト		「量子力学入門ノート～ 修正版(Ver. 1.2)～」: 九鬼 導隆 著(神戸高専生協)					
参考書		「物理の考え方4 量子力学の考え方」: 砂川 重信(岩波書店) 「物理テキストシリーズ6 量子力学入門」: 阿部 龍蔵(岩波書店) 「初等量子力学(改訂版)」: 原島 鮮(裳華房) 「岩波基礎物理シリーズ6 量子力学」: 原 康夫(岩波書店) 「量子力学」: 砂川 重信(岩波書店)					
関連科目		本科1～3年の物理, 数学, 3～4年の応用物理, 応用数学, 確率・統計					
履修上の注意事項		量子論は古典物理学の限界を乗り越えるために発展してきた学問である。それゆえ、物理学全般、数学全般にわたる理解を必要とする。本科1～3年の物理や数学のみならず、3～4年の応用物理や応用数学・確率・統計をしっかりと復習しておくことが望ましい。特に、物理でいえば古典力学や振動・波動現象、数学でいえばいわゆる解析学や線形代数学、確率論と関わりが深いので、これらの分野をしっかりと理解しておくことが望ましい。					

授業計画(量子物理)		
	テーマ	内容(目標・準備など)
1	量子力学前夜,量子力学の意味	量子力学が誕生する直前の20世紀に入ったばかりの物理学界の状況を解説しつつ,量子力学発見の歴史的経緯や量子力学の必要性を解説する。
2	古典力学の破綻と前期量子論1:黒体輻射,固体の比熱等	黒体輻射におけるレイリー-ジーンズの法則と紫外部の破綻およびプランクの輻射式,また,固体の比熱におけるデュロン-プティの法則とアインシュタインの比熱理論を解説し,プランクの量子仮説(エネルギーが離散的であること)の発見過程およびその意味を講義する。
3	古典力学の破綻と前期量子論2:光電効果,電子線回折	光電効果の実験とアインシュタインの解釈を解説し,電磁波(波動)が光子(粒子)としての性質を持つことを,また,電子線回折の実験より,電子(粒子)が波動としての性質を持つこととド・ブロイの物質波について解説し,波動と粒子の二重性について講義する。
4	シュレディンガー方程式の導出	プランクの量子仮説とド・ブロイの物質波より,粒子のエネルギーや運動量を波動として表現して波動関数(波を記述する関数)に代入し,非定常状態のシュレディンガー方程式を導出する。さらに,非定常状態のシュレディンガー方程式を変数分離して,定常状態のシュレディンガー方程式を導出する。
5	ボルンの確率解釈・不確定性原理	電子線回折等の実験より,ド・ブロイ波が確率振幅であることを示し,ボルンの確率解釈について解説する。さらに,ド・ブロイ波と粒子の運動量の関係,波動関数が確率振幅であることからハイゼンベルクの不確定性原理を解説する。
6	量子力学の一般原理(重ね合わせの原理と状態ベクトル)	注目している物理系が,定常状態のシュレディンガー方程式の解が形成するヒルベルト空間内で状態ベクトルとして記述され,物理系の時間発展が,非定常状態のシュレディンガー方程式より,状態ベクトルの運動として記述できる事を解説する。
7	シュレディンガー方程式の特徴と波動関数の性質	シュレディンガー方程式の特徴とその解である波動関数の性質(一価・有界・連続)を解説し,特に波動関数の連続条件(境界条件)からエネルギーが離散的になることを講義する。
8	中間試験	1～7回の内容で試験を行う。
9	厳密に解ける系1:1次元井戸型ポテンシャル,中間試験の解答・解説	量子力学の基本でありかつ近似法等の応用の基本となる厳密に解ける系について解説する。1次元の井戸型ポテンシャルを取り上げ,まず,ポテンシャルが有界の場合を解説し,極限移行でポテンシャルを無限大とし,ポテンシャルが無限大の系でのエネルギー波動関数の厳密解を求める。また,中間試験の解説も行う。
10	厳密に解ける系2:散乱問題(一次元箱形ポテンシャル)	1次元の箱形ポテンシャルに衝突する粒子を取り上げ,散乱問題の基本を解説し,粒子の反射係数と透過係数を求め,トンネル効果についても説明する。
11	厳密に解ける系3:1次元調和振動子	1次元調和振動子を取り上げ,通常の微分方程式を解く解き方でなく,場の量子論の基礎ともなる,生成・消滅演算子を用いた,代数的な解法で調和振動子のエネルギーを求める。
12	水素型原子中の電子の軌道,4つの量子数	中心力場に拘束された粒子を取り上げ,その解法を定性的に説明し,主量子数,方位量子数,磁気量子数とその意味について解説し,水素型原子の電子の軌道について講義する。
13	近似法1:摂動論1	代表的な近似法の一つである摂動法について解説する。もともと古典力学で用いられていた摂動展開や,摂動展開の概念を説明し,ハミルトニアンを基本系と摂動ハミルトニアンに分離し,摂動パラメータで展開する。
14	摂動論2	摂動パラメータによる展開を用いて,2次の摂動までの近似エネルギーを求める。
15	近似法2:変分原理と変分法	代表的な近似法の一つである変分法について解説する。近似系のエネルギーは厳密解の基底状態のエネルギーよりも必ず高くなる(変分原理)ことを証明し,エネルギーが停留値をとるという条件よりシュレディンガー方程式が導出でき,さらに,試行関数を制限することでハートリー方程式が導出できることを示す。
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		
備考	本科目の修得には,30 時間の授業の受講と 60 時間の事前・事後自己学習が必要である。前期中間試験および前期定期試験を実施する。	

科 目		技術英語 (Technical English)			
担当教員		瀬戸浦 健仁 准教授			
対象学年等		全専攻・1年・後期・選択・2単位【講義・演習】			
学習・教育目標		B3(40%), B4(40%), D1(20%)		JABEE基準	(b),(d)2-b,(f)
授業の概要と方針		理工系分野の英文を読み書きする上で最も重要なことは、頻出する型にはまった構文と語彙に習熟することである。本講義では、理工系の英語文献に頻出する「構文と語彙」を体系的に学び、国際的に通用する英語の読み書き能力を養う。			
	到達目標		達成度		到達目標別の評価方法と基準
1	【B3】 技術的な話題にて用られる英語の語彙やその基本文例を学習することにより、基本英語力を高める。				技術的な話題にて用られる英語の語彙やその基本文例が理解できているか、小テストおよびレポートによって評価する。
2	【B4】 工学・技術上の英語文献によく用いられる専門用語や単位のあらわし方、表現方法を学習し、読解力や表現力を高める。				工学・技術上の英語文献によく用いられる専門用語や単位のあらわし方、表現方法を、小テストおよびレポートによって評価する。
3	【D1】 先端技術、環境技術、および医療福祉技術に関するトピックも扱う。これによって学生の視野を広げ、さらに技術者としての役割についても考えさせ、技術者意識を高める。				内容が把握できているか、小テストにて評価するとともに、自らが進んで調べようとしているか、小テストおよびレポートによって評価する。
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					
総合評価		成績は、レポート30% 小テスト70% として評価する。試験の代わりに、原則毎回小テストを実施する。総合成績は、100点満点で60点以上を合格とする。			
テキスト		ノート及びプリント講義			
参考書		「科学英文技法」：兵藤申一（東京大学出版会）			
関連科目		本科の英語各教科、英語演習、時事英語			
履修上の注意事項		本科で講義されている英語科目に関する基本的な知識を必要とする。			

授業計画(技術英語)		
	テーマ	内容(目標・準備など)
1	導入,技術英語の学習法,各種検定試験の案内,技術英語トピック1	授業の進め方説明を説明し,専攻科修了者が習得すべき技術英語の水準を示す。口語的な英語と技術英語の違いを学習する。
2	小テスト1,技術英語トピック2	前回の授業内容から小テストを実施する。技術英語における頻出表現を学習する。
3	小テスト2,技術英語トピック3	前回の授業内容から小テストを実施する。技術的な英文を可能な限り短く簡潔に書く方法を学習する。
4	小テスト3,技術英語トピック4	前回の授業内容から小テストを実施する。技術英語における連結詞と語句の順序を学習する。
5	小テスト4,技術英語トピック5	前回の授業内容から小テストを実施する。技術英語における動詞の選び方と使い方を学習する。
6	小テスト5,技術英語トピック6	前回の授業内容から小テストを実施する。技術英語における時制の知識を学習する。
7	小テスト6,技術英語トピック7	前回の授業内容から小テストを実施する。技術英語における能動態と受動態を学習する。
8	小テスト7,技術英語トピック8	前回の授業内容から小テストを実施する。技術英語における誤りやすい否定表現を学習する。
9	小テスト8,技術英語トピック9	前回の授業内容から小テストを実施する。技術英語における助動詞の使い分けを学習する。
10	小テスト9,技術英語トピック10	前回の授業内容から小テストを実施する。技術英語における不定詞と動名詞を学習する。
11	小テスト10,技術英語トピック11	前回の授業内容から小テストを実施する。技術英語における分詞と分詞構文を学習する。
12	小テスト11,技術英語作文法1	前回の授業内容から小テストを実施する。学会発表要旨を英語で作成する方法を学習する(その1)。
13	小テスト12,技術英語作文法2	前回の授業内容から小テストを実施する。学会発表要旨を英語で作成する方法を学習する(その2)。
14	小テスト13,技術英語作文法3	前回の授業内容から小テストを実施する。学会発表要旨を英語で作成する方法を学習する(その3)。
15	小テスト14,技術英語作文法4	前回の授業内容から小テストを実施する。学会発表要旨を英語で作成する方法を学習する(その4)。
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		
備考	本科目の修得には,30 時間の授業の受講と 60 時間の事前・事後自己学習が必要である。 中間試験および定期試験は実施しない。原則毎回小テストを実施する。	

科 目	工学倫理 (Engineering Ethics)			
担当教員	伊藤 均 非常勤講師			
対象学年等	全専攻・2年・前期・必修・2単位【講義】			
学習・教育目標	D1(100%)		JABEE基準	(b)
授業の概要と方針	技術者は、高度に発達した科学技術を適切に運用していく責任を、社会に対して負っている。この授業では、この責任が、具体的にどのような内容や特徴を有するか、それを果たす際にどのような困難が生じるか、この困難を克服するためにどのような手段が存在し、また必要か等を、さまざまな具体的事例を題材としながら、多角的に考察し、技術者の負う倫理的責任に対する理解を深めていく。			
	到達目標		達成度	到達目標別の評価方法と基準
1	【D1】技術者の業務はどのような特徴を持つか、またそれに対応して、技術者の負う倫理的責任はどのような内容のものかを理解している。			最近発生した事故事例を調べ、それに関わっていた技術者がどのような責任を負っていたかを考察するレポートにおいて、倫理的責任に対する理解を評価する。
2	【D1】技術者はその日常業務において、どのような倫理的問題に直面する可能性があるかを理解している。			科学技術のリスク、組織に関わる問題、海外での技術活動等に関して、授業中適宜小レポートを提出させて評価する。
3	【D1】技術者に関係のある、とりわけ上記の問題に対処する際に重要な社会制度にはどのようなものがあるかについて、十分な知識を身に付けている。			内部告発等に関して、授業中適宜レポートを提出させて評価する。
4	【D1】(1)～(3)の理解や知識に基づいて、技術者が出会う典型的な倫理問題に対して、有効な対処策を考案できる能力を身に付けている。			典型的な倫理問題を扱ったケーススタディを授業中適宜実施し、それに関してまとめたレポートの提出によって評価する。
5				
6				
7				
8				
9				
10				
総合評価	成績は、レポート100% として評価する。授業中に適宜行う小レポートを40%、前期末に提出する最終レポートを60%の割合で総合評価し、60点以上(100点満点)を合格とする。			
テキスト	「はじめての工学倫理」齊藤・坂下編(昭和堂)			
参考書	黒田・戸田山・伊勢田編「誇り高い技術者になろう」(名古屋大学出版会) ハリス他編「第2版 科学技術者の倫理」(丸善株式会社) シンジンガー、マーティン「工学倫理入門」(丸善株式会社) ウィットベック「技術倫理1」(みすず書房) 中村「実践的工学倫理」(化学同人)			
関連科目	一般教養科目			
履修上の注意事項	授業では、ビデオや新聞記事等を使用し、昨今の事故や企業モラルに関する事例を多く取り上げる。授業中、適宜参考資料等も紹介するので、専門分野以外のことにも広く関心を持って取り組んでほしい。応用倫理学、技術史等の関連科目の講義内容を参考にしてほしい。			

授業計画(工学倫理)		
	テーマ	内容(目標・準備など)
1	なぜ技術者倫理なのか	技術者を志すものがなぜ倫理を学ぶ必要があるのか、技術者と倫理とのつながりを、今日の社会的背景や、工学系学会による倫理綱領の制定等から明らかにし、今倫理について学び、考える意義を確認する。
2	チャレンジャー号事故1	技術者倫理においてもっとも有名な、スペースシャトル・チャレンジャー号の事故を取り上げ、組織における技術者の判断と、経営者の判断について述べる。
3	チャレンジャー号事故2	前回に続いて、チャレンジャー号事故の事例を手掛かりとして、組織におけるリスクマネジメントが有効に機能するために、技術者はどのような責任を負うかを考える。
4	東海村JCO臨界事故1	JCOの臨界事故を取り上げ、日本の製造業を支えてきた改善活動の意義と、それが直面している課題、またそれに対して技術者がどのように関わるべきかを考える。
5	東海村JCO臨界事故2	前回に続いて、JCO臨界事故を取り上げ、集団としての組織が陥りやすい集団思考について述べ、安全や品質を確保するために、技術者はそれにいかに対処すべきかを述べる。
6	内部告発1	近年導入された公益通報者保護制度に関して、その趣旨、現行法に対する批判、さらにはこの制度と技術者との関係について解説する。
7	内部告発2	前回に引き続き、内部告発を取り上げる。コンプライアンス体制充実の一環として、相談窓口等の設置を行う企業が増加している。このような動きが、組織と個人の関係にとって有する意義を考察する。
8	製造物責任法	技術者にとってもっとも関係の深い法律と言われる製造物責任法に関して、その内容を確認し、技術者がそれをモノづくりの思想として定着させていくことが重要であることを述べる。
9	知的財産	特許制度や著作権などの制度が、技術の開発等にとって有する意義を確認するとともに、情報技術の発達等による、この制度の抱える課題等を考察する。
10	ボパール事故1	史上最大の産業事故といわれる、インド・ボパールでの農業工場事故を取り上げ、グローバル化の進展とともに今後ますます増加するであろう、海外での技術活動に伴う問題について述べる。
11	ボパール事故2	前回の内容に基づいて、技術の展開には、それを取り巻く社会の諸条件、とりわけ文化や歴史、思想等との相互作用が深く関わっていること、技術者は、それらを考慮に入れて技術活動を行う必要があることを考察する。
12	六本木ヒルズ回転ドア事故1	回転ドアの事故の後に行われたドアプロジェクトの活動を紹介し、失敗学の考え方や意義、リスク管理におけるハインリッヒの法則等について述べる。
13	六本木ヒルズ回転ドア事故2	前回の内容に基づいて、技術者もまた、それぞれが技術者としての文化を背景に持っていること、それに起因する問題を克服するためには、知識の伝承をいかに行うかが重要であることを述べる。
14	技術者倫理の射程	技術者による新たな技術開発は、情報社会や医療といった分野にさまざまな影響をもたらしている。技術者は、これら他の分野の倫理とどのようなかわりを持つべきなのかを考察する。
15	専門職としての技術者と倫理	これまでのまとめと、今後の課題について、現代およびこれからの時代において、技術者が専門職としての地位を確立することが、社会全体にとって大きな意義を有すること、そして、そのための必要条件の一つが工学倫理であることを解説する。
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		
備考	本科目の修得には、30 時間の授業の受講と 60 時間の事前・事後自己学習が必要である。 中間試験および定期試験は実施しない。中間試験、定期試験は実施しないが、授業中に小レポート、期末に最終レポートの提出を課す。	

科 目		数理工学Ⅱ (Mathematical Engineering II)			
担当教員		加藤 真嗣 准教授			
対象学年等		全専攻・2年・前期・選択・2単位【講義】			
学習・教育目標		A1(100%)		JABEE基準	(c),(d)1
授業の概要と方針		グラフは物事間の関係を表現する手法として使うことができ,最短経路問題,連結度,回路網や制御システムの解析,通信ネットワークや交通網などの最適化や信頼度の評価,プログラムの最適化など多様に応用される.本講義ではそのような多様な問題に対応するグラフの基礎的な取り扱いについて講義し,課題レポートを課すことより実践力も身につける.			
	到達目標		達成度		到達目標別の評価方法と基準
1	【A1】グラフに用いられる用語や定義が的確に説明できる.				グラフに用いられる用語や定義が的確に説明できることを定期試験およびレポートで60%以上正解を合格として評価する.
2	【A1】グラフの基本的な問題が解ける.				グラフの基本的な問題が解けることを定期試験およびレポートで60%以上正解を合格として評価する.
3	【A1】ネットワークにおける信頼性,最大最小問題が解ける.				ネットワークにおける信頼性,最大最小問題が解けることを定期試験およびレポートで60%以上正解を合格として評価する.
4	【A1】電気回路網にグラフを適用して,解析する式の導出ができる.				電気回路網にグラフを適用して,解析する式の導出ができることを定期試験およびレポートで60%以上正解を合格として評価する.
5	【A1】交通網におけるターミナル容量,交通容量などの算定ができる.				交通網におけるターミナル容量,交通容量などの算定ができることを定期試験およびレポートで60%以上正解を合格として評価する.
6					
7					
8					
9					
10					
総合評価		成績は,試験80% レポート20% として評価する.100点満点で60点以上を合格とする.			
テキスト		配布プリント			
参考書		「グラフ理論入門」樋口龍雄監,佐藤公男著(日刊工業新聞社) 「例題で学ぶグラフ理論」安藤清・土屋守正・松井泰子(森北出版株式会社) 「グラフ理論による回路解析」服藤憲司(森北出版株式会社)			
関連科目		応用数学(本科4年),確率・統計(本科4年)			
履修上の注意事項		履修にあたっては,本科の数学Ⅱや応用数学などで学習する行列の取り扱い,確率・統計で学習する確率の基本的取り扱いの知識を習得しておくことが望ましい.			

授業計画(数理工学Ⅱ)		
	テーマ	内容(目標・準備など)
1	ガイダンスおよびグラフの概念	本講義の進め方とグラフの概念について説明する。
2	グラフの定義<1>	グラフ理論における基本用語,点の次数,点と辺の操作について説明する。
3	グラフの定義<2>	グラフの連結性,カットセットと分離集合,木,平面グラフについて説明する。
4	演習	予め講義中に与えたグラフの定義に関する問題(課題レポート)の解答と解説を受講者が行う。
5	グラフのデータ構造	コンピュータ上でのグラフの表現法,つまり行列を用いた表現法について説明する。
6	演習	予め講義中に与えたデータ構造に関する問題(課題レポート)の解答と解説を受講者が行う。
7	グラフの基本問題<1>	ネットワークの最大フロー問題の解き方について説明する。
8	グラフの基本問題<2>	ネットワークの最短経路問題の解き方について説明する。
9	グラフの基本問題<3>	数え上げ問題の解き方について説明する。
10	グラフの基本問題<4>	電気回路網問題の解き方について説明する。
11	演習	予め講義中に与えたネットワーク,数え上げ,電気回路網に関する問題(課題レポート)の解答と解説を受講者が行う。
12	ネットワークの信頼性	ネットワークの故障と信頼性,連結度などの問題の解き方について説明する。
13	演習	予め講義中に与えたネットワークの故障と信頼性,連結度などに関する問題(課題レポート)の解答と解説を受講者が行う。
14	交通網とグラフ	交通網へのグラフの適用について,ターミナル容量,交通容量などの問題の解き方について説明する。
15	演習	予め与えた交通網に関する問題(課題レポート)の解答と解説を受講者が行う。
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		
備考	本科目の修得には,30 時間の授業の受講と 60 時間の事前・事後自己学習が必要である。 前期定期試験を実施する。	

科 目		数値流体力学 (Numerical Fluid Dynamics)			
担当教員		柿木 哲哉 教授			
対象学年等		全専攻・2年・前期・選択・2単位【講義】			
学習・教育目標		A2(100%)		JABEE基準	(c),(d)1
授業の概要と方針		本講義は水,空気などの流体運動を数値的に解くための基礎式やその解法を説明し,具体的なテーマの課題を解く。			
	到達目標		達成度		到達目標別の評価方法と基準
1	【A2】流れの現象を物理的観点から理解し,数学的に方程式で表現できる。				流れの現象を物理的観点から理解し,数学的に方程式で表現できるか定期試験とレポートで評価する。
2	【A2】テイラー展開を応用し,微分方程式の解を求めることができる。				テイラー展開を応用し,微分方程式の解を求めることができるか定期試験とレポートで評価する。
3	【A2】有限差分法の基礎を理解し,有限差分法を用いて偏微分方程式の離散化ができる。				有限差分法の基礎を理解し,有限差分法を用いて偏微分方程式の離散化をできるか定期試験とレポートで評価する。
4	【A2】有限差分法を用いて完全流体の数値計算ができる。				有限差分法を用いて完全流体の数値計算をできるか定期試験とレポートで評価する。
5	【A2】有限差分法を用いて粘性流体の数値計算ができる。				有限差分法を用いて粘性流体の数値計算をできるか定期試験とレポートで評価する。
6					
7					
8					
9					
10					
総合評価		成績は,試験85% レポート15% として評価する.総合評価は100点満点で60点以上を合格とする.総合評価のレポートの比率は試験に比べ低い,レポートが少ないわけではない.提出期限を超過したレポートは評価しない.未提出のレポートがある場合はレポート成績を評価しない。			
テキスト		「工学基礎技術としての物理数学I:導入編」:由比政年・前野賀彦(ナカニシヤ出版)			
参考書		「流体力学の数値計算法」:藤井孝藏(東京大学出版) 「流体力学」:日野幹雄(朝倉出版) 「明解水理学」:日野幹夫(丸善)			
関連科目		数学IおよびII,応用数学IおよびII,水理学I～III,その他の流体力学系の科目			
履修上の注意事項		受講にあたっては,水理学などの流体の力学を習得していることが望ましい.題材は土木工学・建築学における諸現象を扱う.課題ではプログラミングをする必要があるが,講義ではプログラム言語に関する基礎的な説明はしない.従って,受講段階でfortranなどのプログラム言語を自由に扱える必要がある.また,出欠の取扱いは本科に準ずる.授業の進度は理解度に応じて調整することがある。			

授業計画(数値流体力学)		
	テーマ	内容(目標・準備など)
1	数値流体力学の概要,流体(水理)現象の数学的記述	数値流体力学の概要,流体の連続式,加速度,運動量の保存則等の数学的記述について学習する。
2	テイラー展開とその応用(1)	テイラー展開を用いて複雑な関数の一部を簡単な関数で局所的に近似し,少し先の近似値を予測する方法について学習する。
3	テイラー展開とその応用(2)	テイラー展開を用いて複雑な関数の一部を簡単な関数で局所的に近似し,少し先の近似値を予測する方法について学習する。
4	有限差分法(1)	テイラー展開を利用して微分方程式を近似的(数値的)に解く方法を学習する。
5	有限差分法(2)	差分式に対する近似精度の評価,所定の精度を持つ近似式の誘導について学習する。
6	波動方程式の数値解析(1)	波の伝搬を表す波動方程式を例に,差分法による解析例を通して波動方程式の性質を学び,差分近似を選択する際の考え方や注意点について学習する。
7	波動方程式の数値解析(2)	波の伝搬を表す波動方程式を例に,差分法による解析例を通して波動方程式の性質を学び,差分近似を選択する際の考え方や注意点について学習する。
8	前半のまとめと演習(プログラミング)	1～7回までのまとめと演習を行う。
9	拡散方程式の数値解析(1)	拡散現象を表す拡散方程式を例に,差分法による解析例を通して拡散方程式の性質を学び,差分近似を選択する際の考え方や注意点について学習する。
10	拡散方程式の数値解析(2)	拡散現象を表す拡散方程式を例に,差分法による解析例を通して拡散方程式の性質を学び,差分近似を選択する際の考え方や注意点について学習する。
11	有限差分法を用いた完全流体の数値解析(1)	完全流体の支配方程式と有限差分法を用いた離散化について学習する。
12	有限差分法を用いた完全流体の数値解析(2)	完全流体の支配方程式と有限差分法を用いた離散化について学習する。
13	有限差分法を用いた粘性流体の数値解析(1)	粘性流体の支配方程式と有限差分法を用いた離散化について学習する。
14	有限差分法を用いた粘性流体の数値解析(2)	粘性流体の支配方程式と有限差分法を用いた離散化について学習する。
15	後半のまとめと演習(プログラミング)	9～14回までのまとめと演習(プログラミング)を行う。
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		
備考	本科目の修得には,30 時間の授業の受講と 60 時間の事前・事後自己学習が必要である。 前期定期試験を実施する.換算欠課時数が授業数の1/3を超えた場合は成績を評価しない.なお,換算欠課時数の算定法は本科のものを準用する。	

科 目		専攻科ゼミナール I (Advanced Course Seminar I)		
担当教員		伊原 茂 教授, 鳥居 宣之 教授, 柿木 哲哉 教授, 上中 宏二郎 教授, 野並 賢 教授, 宇野 宏司 教授, 高科 豊 准教授, 田島 喜美恵 准教授, 小塚 みすず 准教授, 今井 洋太 助教		
対象学年等		都市工学専攻・1年・前期・必修・2単位【演習】		
学習・教育目標		B4(40%), C2(60%)	JABEE基準	(d),(e),(f),(g),(i)
授業の概要と方針		都市工学に関連する英語論文を輪読し,日本語要約を行うことで工学分野の英語表現を学ぶ.さらに,関連する英文文献を自身で調査し,その概要についての討論をゼミナール形式で行うことで,幅広い工学分野の新しい学識を得るとともに,最新技術や研究の手法について実践的に学ぶ.		
	到達目標	達成度	到達目標別の評価方法と基準	
1	【B4】都市工学関連の英語論文を読み,その内容を理解し,日本語で説明できる.			都市工学関連の英語論文の内容について,日本語で説明したレポートで評価する.
2	【C2】専門分野の問題に関連する英文文献を調査し,その内容を発表することができる.			専門分野の問題に関する英文文献を調査,発表させ,資料として作成したレポートで評価する.
3				
4				
5				
6				
7				
8				
9				
10				
総合評価		成績は,レポート100% として評価する.各担当教員による評価点を平均して評価する.100点満点の60点以上を合格点とする.		
テキスト		適宜,都市工学分野の英語論文等の資料等を配付する.		
参考書				
関連科目		都市工学全般		
履修上の注意事項		都市工学実験実習,卒業研究:都市工学に関する調査,分析手法など基礎的な知識を必要とする.		

授業計画(専攻科ゼミナールⅠ)		
	テーマ	内容(目標・準備など)
1	授業ガイダンス,土質力学(Soil Mechanics)に関する英語論文の輪読	シラバス内容の説明,土質力学に関する英語論文を輪読し,日本語要約をおこなう。
2	土質力学(Soil Mechanics)に関する英文文献調査と発表	与えられた土質力学の課題に関する英文文献を各自で調査するとともに,その課題に対する解決策等を受講者全員で討議し,その内容について発表する。
3	地盤工学(Geotechnical Engineering)に関する英語論文の輪読	地盤工学に関する英語論文を輪読し,日本語要約をおこなう。
4	地盤工学(Geotechnical Engineering)に関する英文文献調査と発表	与えられた地盤工学の課題に関する英文文献を各自で調査するとともに,その課題に対する解決策等を受講者全員で討議し,その内容について発表する。
5	構造工学(Structural Mechanics)に関する英語論文の輪読	構造工学に関する英語論文を輪読し,日本語要約をおこなう。
6	構造工学(Structural Mechanics)に関する英文文献調査と発表	与えられた構造工学の課題に関する英文文献を各自で調査するとともに,その課題に対する解決策等を受講者全員で討議し,その内容について発表する。
7	都市計画(Urban Planning)に関する英語論文の輪読	都市計画に関する英語論文を輪読し,日本語要約をおこなう。
8	都市計画(Urban Planning)に関する英文文献調査と発表	与えられた都市計画の課題に関する英文文献を各自で調査するとともに,その課題に対する解決策等を受講者全員で討議し,その内容について発表する。
9	コンクリート診断(Concrete diagnosis)に関する英語論文の輪読	コンクリート診断に関する英語論文を輪読し,日本語要約をおこなう。
10	コンクリート診断(Concrete diagnosis)に関する英文文献調査と発表	与えられたコンクリート診断の課題に関する英文文献を各自で調査するとともに,その課題に対する解決策等を受講者全員で討議し,その内容について発表する。
11	海岸工学(Coastal Engineering)に関する英語論文の輪読	海岸工学に関する英語論文を輪読し,日本語要約をおこなう。
12	海岸工学(Coastal Engineering)に関する英文文献調査と発表	与えられた海岸工学の課題に関する英文文献を各自で調査するとともに,その課題に対する解決策等を受講者全員で討議し,その内容について発表する。
13	生態学研究(Ecological Research)に関する英語論文の輪読	Ecological Researchに関する英語論文を輪読し,日本語要約をおこなう。
14	生態学研究(Ecological Research)に関する英文文献調査と発表	与えられたEcological Researchの課題に関する英文文献を各自で調査するとともに,その課題に対する解決策等を受講者全員で討議し,その内容について発表する。
15	交通計画(Transportation Planning)に関する英語論文の輪読	交通計画に関する英語論文を輪読し,日本語要約をおこなう。
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		
備考	本科目の修得には,60 時間の授業の受講と 30 時間の事前・事後の自己学習が必要である。 中間試験および定期試験は実施しない。毎回,英和辞典を持参すること。	

科 目		専攻科特別研究 I (Graduation Thesis for Advanced Course I)		
担当教員		伊原 茂 教授, 水越 睦視 教授, 鳥居 宣之 教授, 柿木 哲哉 教授, 上中 宏二郎 教授, 野並 賢 教授, 宇野 宏司 教授, 高 科 豊 准教授, 田島 喜美恵 准教授, 小塚 みすず 准教授		
対象学年等		都市工学専攻・1年・通年・必修・7単位【研究】		
学習・教育目標		B1(15%), B2(15%), B4(5%), C2(65%)	JABEE基準	(d),(e),(f),(g),(i)
授業の 概要と方針		本科で修得した知識や技術を基礎として,さらに高度な専門工学分野の研究を指導教官の下で行う.専門知識の総合化により研究開発およびデザイン能力を高める.研究課題における問題を学生自ら発見し,広い視野をもって理論的・体系的に問題解決する能力を養う.研究課題の設定にあたっては研究の新規性,有用性,理論的検討を重視する.研究の内容や進捗状況を確認し,プレゼンテーション能力の向上を図るため発表会を実施する.研究成果を報告書にまとめ提出する.		
	到達目標	達成度	到達目標別の評価方法と基準	
1	【C2】設定した研究テーマについて,専門知識をもとに研究遂行能力を養う.			研究課題の探究力,実験計画力,研究遂行力を日常の研究活動実績,および最終の報告書から評価する.
2	【B1】研究の経過を整理して報告し,研究内容を簡潔に発表する能力を身に付ける.			特別研究発表会において内容と構成,発表に対して評価する.
3	【B2】研究内容に関する質問に対して的確に回答できる.			特別研究発表会において質疑応答に対して評価する.
4	【B4】自らの研究課題と関連した英語の文献,論文を読む能力を身に付ける.			関連した英語論文を自らの研究に役立てているか,日常の研究活動状況や発表会での引用実績から評価する.
5				
6				
7				
8				
9				
10				
総合評価		成績は研究課題の探求・実験計画・研究遂行実績および最終報告書の充実度で70%,特別研究発表会の充実度で30%(中間10%,最終20%)として評価する.100点満点で60点以上を合格とする.		
テキスト		研究テーマごとに指定される.		
参考書		研究テーマごとに指定される.		
関連科目		都市工学に関する科目全て		
履修上の 注意事項		本教科内容に関してI,IIの期間中に,最低1回の学外発表(関連学協会における口頭またはポスター発表)を義務付ける.		

授業計画(専攻科特別研究Ⅰ)	
内容(テーマ, 目標, 準備など)	
研究は下記から1テーマを選び指導教員の指導のもとで行う. 1) 鋼構造物・コンクリート構造物の補修・補強に関する研究/高架橋の耐震補強に関する研究(伊原茂 教授) 2) コンクリート構造物の高性能・長寿命化に関する研究(水越睦祝 教授) 3) 斜面災害の発生危険度評価手法の構築に関する研究(鳥居宣之 教授) 4) 海岸などの水域における流体運動や底質移動に関する研究(柿木哲哉 教授) 5) 鋼・コンクリート複合構造ならびに鋼構造部材の力学特性(上中宏二郎 教授) 6) 瀬戸内海の防災・環境保全に資する研究/兵庫県・神戸市内の地域防災に関する研究(宇野宏司 教授) 7) コンクリート凍害深さの評価法に関する研究(高科豊 准教授) 8) 盛土の安全性評価手法の開発に関する研究(野並賢 教授) 9) 人々の居心地に着目した建築計画及び地域計画に関する研究(田島喜美恵 准教授) 10) 居住環境の維持および改善に向けた交通施策の検討(小塚みすず 准教授)	
備考	本科目の修得には,210 時間の授業の受講と 105 時間の事前・事後の自己学習が必要である. 中間試験および定期試験は実施しない.

科 目	専攻科特別実習 (Practical Training in Factory for Advanced Course)			
担当教員	田島 喜美恵 准教授【実務経験者担当科目】			
対象学年等	都市工学専攻・1年・通年・選択・2単位【実験実習】			
学習・教育目標	C2(50%), D1(50%)	JABEE基準	(b),(d),(e),(g),(i)	
授業の概要と方針	都市工学専攻は自然環境や社会情勢に密接に関連しており,本専攻科の教育目的の1つには実践的思考の研鑽が挙げられている.実社会の情勢を知ることにより,各自の特別研究や講義内容の社会に対する位置付けを理解させる上でも重要である.官公庁や民間企業で1週間当たり40時間として通算3週間以上実習を行う.実習のテーマは,指導教官と学生との受入先が十分に話し合い選定する.*本実習は,官公庁や民間企業において技術者の指導の下,実務を実践的に学ぶものである.			
	到達目標	達成度	到達目標別の評価方法と基準	
1	【C2】実習機関の業務内容を理解し,実習先での具体的な到達目標を達成する.			実習機関の業務内容に対する理解度および実習先での具体的な到達目標の達成度を実習証明書と実習報告書で評価する.
2	【D1】実習を通じて工学技術が社会や自然に与える影響に関する理解を深める.			実習を通じて工学技術が社会や自然に与える影響に関する理解を深めたことを実習報告書と実習報告会で評価する.
3				
4				
5				
6				
7				
8				
9				
10				
総合評価	成績は,プレゼンテーション20% 実習証明書50% 実習報告書30% として評価する.(プレゼンテーション＝特別実習報告会)100点満点で60点以上を合格とする.実習届,実習報告書,実習日誌の提出がない場合は不合格とする.			
テキスト				
参考書				
関連科目	都市工学科,都市工学専攻で学ぶ全ての科目			
履修上の注意事項	他の履修科目の授業と重複しない場合のみ実習先への派遣を認める.			

授業計画(専攻科特別実習)	
内容(テーマ, 目標, 準備など)	
<実習先の決定> 実習先の候補を案内資料および担当教員との面談の上で決定する。 実習先が決定した後, 学外実習届を担当教員へ提出する。 <安全管理> 実習開始までに傷害保険等に参加する。 <実習期間> 特別実習の期間は, 国内で15日以上かつ120時間以上, 国外で10日以上かつ80時間以上とする。ただし, 複数の実習先での実習期間を合算することができる。 <実習報告書の提出> 実習終了後, 直ちに次に掲げる書類を提出する。 (1) 特別実習証明書 (2) 特別実習報告書 (3) 特別実習日誌 <報告会の実施> 実習終了後, 特別実習報告会において実習内容を発表する。	
備考	中間試験および定期試験は実施しない。【実務経験者担当科目】

科 目	応用構造工学 I (Advanced Structural Mechanics I)				
担当教員	伊原 茂 教授				
対象学年等	都市工学専攻・1年・前期・選択・2単位【講義】				
学習・教育目標	A3(20%), A4-AS2(80%)		JABEE基準	(c),(d),(g)	
授業の概要と方針	本講義は,構造物の設計計算や強度解析に必要となる有限要素法(FEM)および構造物の地震応答解析に必要となる動的解析法を学ぶ.まず,平面骨組に対する有限要素の剛性マトリックス定式化と全体解析の流れを理解して簡単なプログラミングができるように講義する.次に,ニューマーク β 法を用いた1自由度系振動体の動的解析法について講義し,構造物の地震応答の動的解析演習を行う.				
	到達目標		達成度	到達目標別の評価方法と基準	
1	【A4-AS2】有限要素法の基礎式の定式化の流れを説明できる.				有限要素法の基礎式定式化が理解できているかをレポートおよび中間試験で評価する.
2	【A4-AS2】骨組要素の変位関数を仮定して,剛性マトリックスを誘導できる.				有限要素の変位関数を仮定して,要素剛性マトリックスを誘導できるかをレポートおよび中間試験で評価する.
3	【A4-AS2】運動方程式の数値積分法の基礎式を誘導できる.				運動方程式の成り立ちについて説明できるか,および,平均加速度法による数値積分が理解できているかの2点をレポートおよび定期試験で評価する.
4	【A3】平面骨組の有限要素解析のプログラムを作成して実行することができる.				有限要素法を用いて構造計算を実施できるかをレポートにより評価する.
5	【A3】1自由度系振動体にモデル化した構造物の地震応答解析を行うことができる.				地震動を受ける1自由度系振動体の時刻歴応答解析を実施できるかをレポートで評価する.
6					
7					
8					
9					
10					
総合評価	成績は,試験70% レポート30% として評価する.試験70%の内訳は,中間試験35%,定期試験35%とする.100点満点中60点以上を合格とする.				
テキスト	崎元達郎: 構造力学(下),第2版,不静定編,森北出版 動的解析に関しては適宜プリント配布する.				
参考書	平井一男,水田洋司: 耐震工学入門,森北出版				
関連科目	本科2年～5年の応用数学I,II,応用物理,構造力学I～III,専攻科1年の応用構造工学II				
履修上の注意事項	行列計算の知識(線形代数),力のつり合い,応力-ひずみ関係などの基礎知識(構造力学,材料力学)を修得していること. また,PCの基本操作ができること.				

授業計画（応用構造工学Ⅰ）		
	テーマ	内容（目標・準備など）
1	ガイダンスおよび応用構造工学概論	(1)有限要素法の歴史,(2)応力法,変位法の関係,(3)マトリックス構造解析法の進歩,(4)有限要素法の応用例,および,(5)動的応答解析についての概論を講義する。
2	有限要素法の基礎式	構造物に作用する外力-変位の関係,内部の応力-ひずみの関係を基礎として,仮想外力仕事=仮想ひずみエネルギーを意味する仮想仕事の原理について講義する。
3	平面トラス要素の剛性マトリックス	簡単な棒要素を取り上げて,変位関数の仮定,ひずみ-変位関係,応力-変位関係を導き,仮想仕事の原理を用いて,要素剛性マトリックスを誘導する.定式化の流れを理解する。
4	座標変換マトリックスと平面トラスの全体剛性マトリックス	トラスの全体解析を行う.要素剛性マトリックスから全体剛性マトリックスを組み立て(アセンブル),境界条件を導入して,未知変位を求める.全体解析の流れを理解する。
5	軸力と曲げを受ける骨組要素の剛性マトリックス	軸力と曲げをうける平面骨組のはり要素の剛性マトリックスを誘導する。
6	平面骨組の全体解析(1)	門形ラーメンの全体解析を通じて,要素剛性マトリックスから全体剛性マトリックスを組み立て(アセンブル),境界条件を導入して,未知変位を求める.全体解析の流れを理解する。
7	平面骨組の全体解析(2)	門形ラーメンの全体解析を通じて,要素剛性マトリックスから全体剛性マトリックスを組み立て(アセンブル),境界条件を導入して,未知変位を求める.全体解析の流れを理解する。
8	中間試験	1回から7回までの講義内容について試験を行う.構造物の動的解析の基礎として,構造物のモデル化と運動方程式の成り立ちについて理解する。
9	中間試験の解説および構造物の動的解析のモデル化について	中間試験を返却し,解説する.構造物の動的解析の基礎として,構造物のモデル化と運動方程式の成り立ちについて理解する。
10	構造物の基本振動性状(1)	1自由度系振動体の自由振動と減衰自由振動の一般解を誘導し,振動特性の基本を理解する。
11	構造物の基本振動性状(2)	調和外力を受ける1自由度系振動体について,運動方程式を解き,一般解,特解を誘導して,自由振動,過渡応答,定常応答を理解する。
12	運動方程式の数値積分法(1)	運動方程式の数値積分に用いるニューマーク β 法の基礎式を誘導して,数値積分法の流れを理解する。
13	運動方程式の数値積分法(2)	運動方程式の数値積分に用いるニューマーク β 法の基礎式を誘導して,数値積分法の流れを理解する.1から7回目までの講義内容について試験を行う。
14	平均加速度法を用いた構造物の動的解析(1)	平均加速度法によって1自由度系振動体の自由振動と減衰自由振動の数値シミュレーションを行い,厳密解と比較する。
15	平均加速度法を用いた構造物の動的解析(2)	平均加速度法によって,1自由度系にモデル化した構造物の地震応答の数値シミュレーションを行い,各種の時刻歴応答の結果を理解する。
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		
備考	本科目の修得には,30時間の授業の受講と60時間の事前・事後自己学習が必要である。前期中間試験および前期定期試験を実施する。	

科 目	応用構造工学Ⅱ (Advanced Structural Mechanics II)				
担当教員	上中 宏二郎 教授				
対象学年等	都市工学専攻・1年・後期・選択・2単位【講義】				
学習・教育目標	A4-AS1(50%), A4-AS2(50%)		JABEE基準	(d),(g)	
授業の概要と方針	本講義では,土木,建築構造物の主要なコンクリート構造と鋼材とコンクリートを一体化した鋼・コンクリート複合構造について学ぶ.まず,前半のコンクリート構造では,曲げ,せん断が作用する場合を学修する.つぎに,後半では,複合構造物を建築と土木構造物に分類し,その力学特性について学修する.				
	到達目標		達成度	到達目標別の評価方法と基準	
1	【A4-AS2】鋼材,コンクリートの材料特性が理解できる.			鋼材とコンクリートの材料特性の理解度を中間試験で評価する.	
2	【A4-AS1】軸力,曲げせん断を受けるRC部材の終局強度算定ができる.			曲げせん断を受けるRC部材の終局強度の理解度を中間試験で評価する.	
3	【A4-AS2】塑性ヒンジによるモーメント再分配の計算ができる.			塑性ヒンジによるモーメント再分配の理解度を中間試験で評価する.	
4	【A4-AS1】合成はり重ね梁のたわみの計算ができる.			合成梁と重ね梁のたわみの計算の理解度を定期試験で評価する.	
5	【A4-AS1】鋼とコンクリートの付着強度の計算ができる.			鋼とコンクリート間の付着強度の理解度を定期試験で評価する.	
6	【A4-AS2】全塑性状態における鋼・コンクリート合成柱の耐力計算ができる.			全塑性状態における鋼・コンクリート合成柱の耐力計算を定期試験,レポートで評価する.	
7					
8					
9					
10					
総合評価	成績は,試験90% レポート10% として評価する.総合評価は100点満点中60点以上を合格とする.試験90%の内訳は,中間試験45%,定期試験45%である.				
テキスト	講義時に配付するプリント				
参考書	「鉄筋コンクリートの解析と設計 第2版」吉川弘道,丸善 「鉄筋コンクリート構造,建築学の基礎2」市之瀬敏勝,共立出版 「鉄骨鉄筋コンクリート構造計算規準」,日本建築学会,丸善 「コンクリート充填鋼管構造」松井千秋,オーム社				
関連科目	構造力学,コンクリート工学,材料学,橋梁工学				
履修上の注意事項	本講義を理解するためには,本科で学んだコンクリート工学,および構造力学の知識が必要となります.講義は先述の科目を理解していることを前提条件として進めていきますので,しっかりと復習をし,受講してください.				

授業計画(応用構造工学Ⅱ)		
	テーマ	内容(目標・準備など)
1	鉄筋コンクリート構造,鋼・コンクリート複合構造の特徴	講義内容,課題,評価方法など教科内容を説明する。
2	コンクリートと鉄筋の複合材料力学(1)	コンクリートと鉄筋の応力-ひずみ関係について説明する.2次元,3次元場のフックの法則について学習する。
3	コンクリートと鉄筋の複合材料力学(2)	鉄筋とコンクリートによる複合材料としての材料力学特性について学習する。
4	コンクリートと鉄筋の複合材料力学(3),コンクリート系実験式	RC柱部材の帯鉄筋に作用する応力と軸圧縮力との関係について説明する.コンクリートの各種実験式と単位換算について学習する。
5	高さが変化する場合のRC部材のせん断力,せん断応力	高さが変化する場合のRC部材のせん断力,せん断応力について学習する。
6	曲げ,軸力,せん断を受ける部材	曲げ,軸力,せん断を受ける柱部材の終局強度について学習する。
7	モーメント再分配と極限解析	塑性ヒンジの形成とモーメント再分配について学習する。
8	中間試験	1から7回目までの試験を行う。
9	中間試験の解答・解説,鋼材の材料特性	中間試験の解説を行う.von Misesの降伏条件,Trescaの降伏条件について学習する。
10	鋼・コンクリート合成はり(1)	完全合成,非合成,不完全合成はりについて学習し,完全合成はりとは非合成はりの変形,応力の計算方法について学習する。
11	鋼・コンクリート合成はり(2)	完全合成,非合成,不完全合成はりについて学習し,完全合成はりとは非合成はりの変形,応力の計算方法について学習する。
12	鋼・コンクリート合成はり(3),鋼とコンクリートの付着面の応力伝達機構(1)	ずれ止めの特徴について学習し,それらの算定方法について学習する。
13	鋼とコンクリートの付着面の応力伝達機構(2),鋼・コンクリート合成柱(1)	様々なずれ止めの付着せん断特性について学習する.また鋼・コンクリート合成柱の特徴について説明する。
14	鋼・コンクリート合成柱(2)	日本建築学会で提案されている短柱の終局強度について学習し,土木構造物へ用いた場合のとの比較を行う。
15	完全合成はりの設計	完全合成はりの終局強度について学習する。
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		
備考	本科目の修得には,30 時間の授業の受講と 60 時間の事前・事後自己学習が必要である。 後期中間試験および後期定期試験を実施する。	

科 目		環境保全工学 (Environmental Conservation)			
担当教員		宇野 宏司 教授【実務経験者担当科目】			
対象学年等		都市工学専攻・1年・後期・選択・2単位【講義】			
学習・教育目標		A4-AS1(20%), A4-AS2(60%), A4-AS4(20%)		JABEE基準	(d),(g)
授業の概要と方針		豊かで安全な環境空間を保全するには,自然界で営まれる物理・化学・地学現象または生物の活動について熟知しておく必要がある.本講義では,環境保全に関する国内外の様々な事例から,その思想と実践方法について学ぶ.本講義は,担当教員の民間会社および大学研究機関での実務経験を踏まえて,環境保全技術の各論について教授する.			
	到達目標		達成度		到達目標別の評価方法と基準
1	【A4-AS1】環境保全に関する基本用語が説明できる.				環境保全に関する基本用語が説明できるか中間試験およびレポートで評価する.
2	【A4-AS1】公害,環境問題の歴史や思想について説明できる.				公害,環境問題の歴史や思想について説明できるか中間試験およびレポートで評価する.
3	【A4-AS1】環境管理の具体的手法について説明できる.				環境管理の具体的手法について説明できるか中間試験で評価する.
4	【A4-AS2】山地・河川・沿岸域・里地・都市のなりたちとそこでの環境保全技術について説明できる.				山地・河川・沿岸域・里地・都市のなりたちとそこでの環境保全技術について説明できるか定期試験で評価する.
5	【A4-AS4】瀬戸内海・大阪湾・六甲山・神戸の自然環境の歴史と特徴について説明できる.				瀬戸内海・大阪湾・六甲山・神戸の自然環境の歴史と特徴について説明できるか定期試験で評価する.
6	【A4-AS4】環境保全の時事問題について説明できる.				環境保全の時事問題について説明できるかレポートで評価する.
7					
8					
9					
10					
総合評価		成績は,試験70% レポート30% として評価する.試験成績は中間試験と定期試験の平均とする.100点満点で60点以上を合格とする.			
テキスト		講義時に配付するプリント			
参考書		「環境保全工学」:浮田正夫ほか著(技報堂出版刊) 「大阪湾ー環境の変遷と創造ー」:生態系工学研究会編(恒星社厚生閣刊) 「日本の自然」シリーズ(全8巻):岩波書店 「六甲山の地理」:田中眞吾 編著(神戸新聞出版センター)			
関連科目		水理学,環境水工学,都市環境工学,環境基礎化学			
履修上の注意事項		出席時数が1/3未満の学生は評価しない.開講期間中に環境保全に関する書籍を読み,その書評を提出する課題を課す.			

授業計画(環境保全工学)		
	テーマ	内容(目標・準備など)
1	ガイダンス	本講義の概要を説明する.環境保全工学に関するDVDを視聴する.
2	自然環境の基本現象(1)	環境容量と自然の浄化作用について解説する.
3	自然環境の基本現象(2)	地球環境問題について解説する.
4	自然環境の基本現象(3)	自然生態系の仕組みについて解説する.
5	公害問題と環境保全	各種公害問題の歴史について解説する.
6	自然保護	自然保護の思想や取り組みについて解説する.
7	環境管理の手法	環境管理の法制度や具体的な手法について解説する.
8	中間試験	第7回までの内容を対象に,中間試験を実施する.
9	中間試験の解答・解説.山地における環境保全	中間試験を返却し,解答・解説を行う.山地のなりたちと,そこにおける環境保全について,事例を踏まえて解説する.
10	河川における環境保全	河川のなりたちと,そこにおける環境保全について,事例を踏まえて解説する.
11	沿岸域における環境保全	沿岸域のなりたちと,そこにおける環境保全について,事例を踏まえて解説する.
12	里地・都市における環境保全	里地や都市における環境保全について,事例を踏まえて解説する.
13	【事例学習】瀬戸内海・大阪湾の姿	瀬戸内海・大阪湾圏域の環境の歴史と現状を解説する.
14	【事例学習】六甲山の姿	六甲山の環境の歴史と現状を解説する.
15	【事例学習】神戸の姿	神戸における環境の歴史と現状を解説する.
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		
備考	本科目の修得には,30 時間の授業の受講と 60 時間の事前・事後自己学習が必要である. 後期中間試験および後期定期試験を実施する.【実務経験者担当科目】	

科 目	応用水理学 (Advanced Hydraulics)				
担当教員	宇野 宏司 教授				
対象学年等	都市工学専攻・1年・前期・選択・2単位【講義】				
学習・教育目標	A4-AS4(100%)		JABEE基準	(d),(g)	
授業の概要と方針	地球規模の水循環と流域圏に関わる水工学的事項について講義する.本科での水理学や環境水工学I・IIで学んだ公式や理論式などについて,その実務応用に対する理解を深めさせる.さらに,自然災害における水工学の役割を理解させる.				
	到達目標		達成度		到達目標別の評価方法と基準
1	【A4-AS4】完全流体の基礎方程式およびベルヌーイの定理などの概念が理解できる.				完全流体における流体力学の概念が説明できるかレポートや中間試験で評価する.
2	【A4-AS4】管路および開水路における粘性流体の概念が理解できる.				粘性流体における流体力学の概念が説明できるかレポートや中間試験で評価する.
3	【A4-AS4】地球上の水の概念が理解できる.				地球上の水の概念が説明できるかレポートや定期試験で評価する.
4	【A4-AS4】上流水源から河口および沿岸域に至る流域単位の水循環が理解できる.				上流水源から河口および沿岸域に至る流域単位の水循環が説明できるかレポートや定期試験で評価する.
5	【A4-AS4】水循環・物質循環とミティゲーションの概念が理解できる.				水循環・物質循環とミティゲーションの概念が説明できるかレポートや定期試験で評価する.
6	【A4-AS4】自然災害における水工学の役割が理解できる.				自然災害における水工学の役割が人に説明できるかレポートやプレゼンテーションとディベートで評価する.
7					
8					
9					
10					
総合評価	成績は,試験50% レポート20% プレゼンテーション30% として評価する.総合成績は,100点満点で60点以上を合格とする.試験は中間試験と定期試験の結果の平均点を用いる.プレゼンテーションには筆記試験に相当する口頭試問的要素(ディベート)を含む.				
テキスト	適宜プリントの配布を行う				
参考書	「地球環境学7 水循環と流域環境」:高橋裕・河田恵昭 編(岩波書店) 「水理学」:日下部ら(コロナ社) 「河川工学」:川井ら(コロナ社) 「海岸工学」:平山ら(コロナ社)				
関連科目	水理学,環境水工学I,環境水工学II				
履修上の注意事項					

授業計画(応用水理学)		
	テーマ	内容(目標・準備など)
1	流体の物性と静水力学	流体の物性と単位について説明する。
2	完全流体力学	ベルヌーイの定理とその適用例について説明・紹介する。
3	粘性流体力学1	管路における粘性の流体への影響について説明する。
4	粘性流体力学2	開水路における粘性の流体への影響について説明する。
5	地球上の水1	地球の水危機と日本の水事情について紹介する。
6	地球上の水2	日本の近代河川事業とその教訓について説明する。
7	水系における水循環1	水循環の変化と再生について説明する。
8	中間試験	1～7回目までの講義の試験を行う。
9	中間試験の返却と解答解説・水系における水循環2	中間試験を返却し,解答の解説をおこなう。湖沼の水循環について説明する。
10	水系における水循環3	沿岸域の水循環について説明する。
11	自然災害と水工学1	地球温暖化と水災害リスクについて説明する。
12	自然災害と水工学2	河川洪水と水工学の関係について説明する。
13	自然災害と水工学3	津波・高潮災害と水工学の関係について説明する。
14	プレゼンテーション&ディベート1	水工学に関する与えられたテーマについて各人が発表し,聴講者と質疑応答を行う。
15	プレゼンテーション&ディベート2	水工学に関する与えられたテーマについて各人が発表し,聴講者と質疑応答を行う。
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		
備考	本科目の修得には,30 時間の授業の受講と 60 時間の事前・事後自己学習が必要である。 前期中間試験および前期定期試験を実施する。	

科 目		都市防災学 (Advanced Disaster Reduction Engineering)			
担当教員		鳥居 宣之 教授, 宇野 宏司 教授			
対象学年等		都市工学専攻・1年・前期・選択・2単位【講義】			
学習・教育目標		A2(30%), A4-AS1(20%), A4-AS2(30%), A4-AS4(20%)		JABEE基準	(c),(d),(g)
授業の概要と方針		我が国は様々な自然的・社会的条件から災害が発生しやすい環境下に置かれている。特に,人口・資産が集積した都市においてひとたび大規模な災害が発生した場合には,人的にも物的にも甚大な被害が発生することが予測される。本講義では,都市を災害から守るための取り組み方とその変遷について学習する。			
	到達目標			達成度	到達目標別の評価方法と基準
1	【A2】自然災害の誘因となる大気現象(気象)とそのメカニズム・予測手法ならびに観測手法について説明できる。				自然災害の誘因となる大気現象(気象)とそのメカニズム・予測手法ならびに観測手法について理解できているかをレポート課題ならびに中間試験で評価する。
2	【A2】自然災害の誘因となる地震の基礎知識について説明できる。				自然災害の誘因となる地震の基礎知識について理解できているかを中間試験で評価する。
3	【A4-AS1】我が国における都市防災対策とその変遷について説明できる。				我が国における都市防災対策とその変遷について理解できているかをレポート課題ならびに中間試験で評価する。
4	【A4-AS2】都市で起こりうる災害のメカニズムについて説明できる。				都市で起こりうる災害のメカニズムについて理解できているかをレポート課題ならびに中間試験で評価する。
5	【A4-AS4】都市で起こりうる災害に対する防災・減災対策について説明できる。				都市で起こりうる災害に対する防災・減災対策について理解できているかをレポート課題ならびに定期試験で評価する。
6	【A4-AS4】減災対策の一手法であるハザードマップについて説明できるとともに,「我が家のハザードマップ」を作成できる。				減災対策の一手法であるハザードマップについて理解できているかを定期試験で評価する。また,作成したハザードマップに関するプレゼンテーションを行い,その発表内容を評価する。
7					
8					
9					
10					
総合評価		成績は,試験70% レポート25% プレゼンテーション5% として評価する。なお,試験成績は2回の試験(中間試験・定期試験)の平均点とする。レポートは,提出期限を厳守すること(提出遅れは,原則,評価対象としない)。総合評価は100点満点で60点以上を合格とする。			
テキスト		講義時に適宜配付する講義資料			
参考書		「防災工学」:石井一郎編(森北出版) 「地震・高潮・山崩れー自然災害入門」:塩田修(新風舎) 「これからの防災・減災がわかる本」:河田恵昭(岩波ジュニア新書) 「暮らしと自然災害」:後藤 恵之輔ほか(電気書院) 「都市と防災」:目黒公郎,村尾修(放送大学教育振興会)			
関連科目		物理学,水理学,土質力学,都市環境工学,防災工学,地盤基礎工学,地盤防災工学			
履修上の注意事項		出席回数2/3以上の者に対してのみ成績を評価する。			

授業計画(都市防災学)		
	テーマ	内容(目標・準備など)
1	オリエンテーション,近年の我が国における自然災害	本講義の授業計画について説明する.近年の我が国における自然災害の特徴について学習する.
2	我が国における都市防災対策とその変遷	我が国における都市防災対策とその変遷について学習する.
3	災害気象学(1)	自然災害の誘因となる大気現象(台風,集中豪雨,局地的大雨など)とそのメカニズム, 気象予測の概要について学習する.
4	災害気象学(2)	自然災害の誘因となる気象の観測手法とその変遷について学習する.
5	神戸市域で発生した風水害	神戸市域で過去に発生した風水害について学習する.
6	地震の基礎知識	自然災害の誘因となる地震に関する基礎知識(発生メカニズム,特徴,震度とマグニチュード,地震動と地震波)について学習する.
7	神戸市域で発生した地震災害	兵庫県南部地震による災害について学習する.
8	中間試験	第1～7回までの内容に関する中間試験を行う.
9	中間試験の解答・解説,災害と危機管理	中間試験の解答・解説を行う.災害に対する危機管理のあり方について学習する.
10	企業防災・地域防災	企業や自治体における事業継続計画(BCP),地域継続計画(DCP)について学習する.
11	災害情報(1)	ハザードマップ等,減災に役立つ災害情報とその課題について学習する.レポート課題である「我が家の防災マップ」の作成要領を説明する.
12	災害情報(2)	風水害に関する災害情報について学習する.
13	災害情報(3)	災害時の流言や風評被害について学習する.
14	災害情報(4)	地震災害に関する災害情報について学習する.
15	「我が家の防災マップ」報告会	各自が作成した「我が家の防災マップ」を報告する.
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		
備考	本科目の修得には,30 時間の授業の受講と 60 時間の事前・事後自己学習が必要である. 前期中間試験および前期定期試験を実施する.	

科 目	地盤基礎工学 (Geo-Foundation Engineering)			
担当教員	野並 賢 教授【実務経験者担当科目】			
対象学年等	都市工学専攻・1年・前期・選択・2単位【講義】			
学習・教育目標	A4-AS1(40%), A4-AS2(40%), A4-AS3(20%)		JABEE基準	(d),(g)
授業の概要と方針	橋梁、建築物などの各種構造物は、そのほとんどが地盤との関わりをもっている。また、盛土、補強土などの土構造物の設計・施工に際しては地下水を含む地盤の性質や力学的特性を適切に把握することが求められる。本講義では、担当教員の地盤工学の実務経験を踏まえて、地盤調査および地盤環境問題の重要性を概説すると共に、基礎構造物である擁壁、補強土、杭基礎、カルバート、地盤改良工の概要と代表的な設計方法を説明する。			
	到達目標		達成度	到達目標別の評価方法と基準
1	【A4-AS1】基礎構造物である杭基礎、擁壁、補強土、カルバート、地盤改良工の選定と設計の考え方、設計・施工上の創意工夫事例や留意点に関する知識を修得する。			基礎構造物である杭基礎、擁壁、補強土、カルバート、地盤改良工の選定と設計の考え方、設計・施工上の創意工夫事例や留意点に関する知識を修得できているかを定期試験とレポートで評価する。
2	【A4-AS2】土木構造物における地盤・地下水との力学的な関わりおよび地盤調査の重要性と液状化判定手法について修得する。			土木構造物における地盤・地下水との力学的な関わりおよび地盤調査の重要性と液状化判定手法について修得できているかを中間試験で評価する。
3	【A4-AS2】盛土構造物の使用用途ごとの種類と、力学特性に関する知識を修得する。			盛土構造物の使用用途ごとの種類と、力学特性に関する知識を修得できているかを中間試験で評価する。
4	【A4-AS3】地盤に関わる環境問題、とりわけ土壤汚染問題の発生機構とその対策工の考え方に関する知識を修得する。			地盤に関わる環境問題、とりわけ土壤汚染問題の発生機構とその対策工の考え方に関する知識を修得できているかを定期試験で評価する。
5				
6				
7				
8				
9				
10				
総合評価	成績は、試験90% レポート10% として評価する。備考：総合評価を100点満点として60点以上を合格とする。試験成績は中間試験と定期試験の平均とする。レポート課題は、提出期限を厳守すること（提出遅れは原則、0点とする）。			
テキスト	講義時に適宜配付する補足資料			
参考書	「道路橋示方書(I共通編・IV下部構造編)・同解説」:(日本道路協会) 「道路土工・擁壁工指針」:(日本道路協会) 「地盤調査の方法と解説」:(地盤工学会) 「建築基礎構造設計指針」:(日本建築学会) 「河川堤防の構造検討の手引き」:(国土技術研究センター)			
関連科目	本科の土質力学,水理学,構造力学,防災工学および専攻科の地盤防災工学			
履修上の注意事項	出席回数2/3以上の者に対してのみ成績を評価する。試験は技術士二次試験を模した文章問題とするので、日頃から技術文章を書く練習をしておくこと。また、履修者には、到達目標を達成するために努力する義務がある。			

授業計画(地盤基礎工学)		
	テーマ	内容(目標・準備など)
1	オリエンテーション,地盤工学への土質力学の適用性	本講義の授業計画について説明する.土木事業における地盤工学の位置づけと,土質力学の適用性について学習する.
2	地盤調査計画(1)	土木構造物の設計・施工に際して地盤調査の重要性と,基本的な調査方法であるボーリング調査および調査結果を基にした地盤と地下水の見方について学習する.
3	地盤調査計画(2)	地盤調査方法のうち,原位置試験およびサウンディング,物理探査手法および調査結果を基にした地盤と地下水の見方について学習する.
4	液化化判定	液化化現象の発生機構と液化化判定のための土質定数の設定方法,および各種技術基準毎に定められた液化化判定方法と詳細照査方法の概要について学習する.
5	盛土構造物(1)	盛土構造物のうち,道路盛土についてその構成と機能および,変状崩壊のメカニズムについて学習する.あわせて,設計時の留意点と安全性照査方法の概要,施工法について学習する.
6	盛土構造物(2)	盛土構造物のうち,大規模宅地盛土についてその法的背景と宅地耐震化事業の概要について学習する.また,安全性の低い盛土の抽出手法について学習する.
7	盛土構造物(3)	盛土構造物の一つである河川堤防についてその役割と特徴,破堤のメカニズムについて学習する.また,堤防安全性照査および堤防強化工法の概要について学習する.
8	中間試験	中間試験を実施する.
9	中間試験解説・擁壁(1)	中間試験の解答・解説を行う.用途,地盤状況に応じた最適な擁壁の選定と,代表的な設計法および設計時の留意点について学習する.
10	擁壁(2)	擁壁の健全度評価手法と力学的挙動を踏まえた対策の考え方について学習する.
11	補強土	用途,地盤状況に応じた最適な補強土工法の選定と,代表的な設計法および設計・施工時の留意点について学習する.
12	杭基礎	杭基礎の選定と,代表的な設計法及び設計時の留意点について学習する.
13	カルバート	カルバートの用途,構造について解説を行い,設計時の手順,作用荷重の考え方,基礎地盤対策や施工時の留意点について学習する.
14	地盤改良工法	用途,地盤状況に応じた最適な地盤改良工法の選定と,代表的な設計法および設計時の留意点について学習する.
15	地盤に関わる環境問題	土壌汚染対策法の概要と土壌・地下水汚染に関する地盤調査,影響評価および対策の考え方について学習する.
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		
備考	本科目の修得には,30 時間の授業の受講と 60 時間の事前・事後自己学習が必要である. 前期中間試験および前期定期試験を実施する.	

科 目	地盤防災工学 (Geo-Disaster Prevention Engineering)				
担当教員	鳥居 宣之 教授				
対象学年等	都市工学専攻・1年・後期・選択・2単位【講義】				
学習・教育目標	A4-AS1(40%), A4-AS2(60%)		JABEE基準	(d),(g)	
授業の概要と方針	我が国は地震や豪雨を起因とする地盤災害により幾度となく被害を受けており、地盤災害から人命や財産を護ること（防災・減災）は、都市工学分野の重要な課題の1つである。本講義では、地盤災害の中でも特に斜面災害に着目し、豪雨や地震による斜面災害について過去の事例とそのメカニズムを概説するとともにその調査法（地盤災害リスクを回避するための知識としての地形の見方・考え方も含む）や安定性評価方法ならびに斜面災害対策について講義する。				
	到達目標		達成度	到達目標別の評価方法と基準	
1	【A4-AS2】我が国における斜面災害の実態について習得する。			我が国における斜面災害の実態について理解できているかをレポート、プレゼンテーションならびに定期試験で評価する。	
2	【A4-AS2】豪雨ならびに地震を起因とする斜面崩壊の発生機構に関する知識を習得する。			豪雨ならびに地震を起因とする斜面崩壊の発生機構について理解できているかをレポート、プレゼンテーションならびに定期試験で評価する。	
3	【A4-AS2】豪雨ならびに地震に対する斜面の安定性評価手法に関する知識を習得する。			豪雨ならびに地震に対する斜面の安定性評価手法について理解できているかをレポートならびに定期試験で評価する。	
4	【A4-AS1】斜面災害の対策法（ハード対策とソフト対策）に関する知識を習得する。			斜面災害の対策法（ハード対策とソフト対策）について理解できているかをレポート、プレゼンテーションならびに定期試験で評価する。	
5	【A4-AS1】地盤災害と地形との関連性に関する知識ならびに地形判読（読図）手法などの地盤災害調査法を習得する。			地盤災害リスクを回避するための知識としての地形の見方・考え方や斜面防災・減災のための調査法について理解できているかをレポート、プレゼンテーションならびに定期試験で評価する。	
6					
7					
8					
9					
10					
総合評価	成績は、試験70% レポート20% プレゼンテーション10% として評価する。レポートは、提出期限を厳守すること（提出遅れは、原則、評価対象としない）。総合評価は100点満点で60点以上を合格とする。ただし、試験素点が60点未満の場合は、不合格とする。				
テキスト	講義時に適宜配付する資料				
参考書	「防災・環境・維持管理と地形地質」：地盤工学会（丸善） 「土砂災害から命を守る」：池谷浩（五月書房） 「地形工学入門」：今村遼平（鹿島出版会）				
関連科目	本科の土質力学,防災工学および専攻科の都市防災学,地盤基礎工学				
履修上の注意事項	都市防災学,地盤基礎工学を履修していることが望ましい。出席回数2/3以上の者に対してのみ,成績を評価する。				

授業計画(地盤防災工学)		
	テーマ	内容(目標・準備など)
1	オリエンテーション,我が国における斜面災害の実態	本講義の授業計画について説明する.我が国における斜面災害の実態について学習する.
2	近年の豪雨により発生した斜面災害	近年の豪雨により発生した斜面災害の特徴,発生機構について学習する.
3	近年の地震により発生した斜面災害	近年の地震により発生した斜面災害の特徴,発生機構について学習する.
4	斜面防災・減災のための調査法	斜面防災・減災のための調査法について学習する.
5	建設技術者のための地形判読(1)	地形工学の基本的な考え方ならびに各地形がもつ工学的問題について学習する.
6	建設技術者のための地形判読(2)	地形判読(読図)手法について学習し,地形判読(読図)に関する演習を行う.
7	建設技術者のための地形判読(3)	前回に引き続いて,地形判読(読図)に関する演習を行う.
8	斜面の安定性評価手法(1)	豪雨時の斜面の安定性評価手法(斜面安定解析)について学習する.
9	斜面の安定性評価手法(2)	豪雨時の斜面の安定性評価手法(斜面変形解析)について学習する.
10	斜面の安定性評価手法(3)	地震時の斜面の安定性評価手法(震度法ならびにニューマーク法)について学習する.
11	斜面の安定性評価手法(4)	地震時の斜面安定性評価手法(動的応答解析手法)について学習する.
12	斜面災害対策(1)	斜面災害のハード対策について学習する.
13	斜面災害対策(2)	斜面災害のソフト対策について学習する.
14	斜面災害対策(3)	前回に引き続いて,斜面災害のソフト対策について学習する.
15	プレゼンテーション&グループディスカッション	今後の斜面災害に備えた国づくり,都市づくりの方策にして,各自のプレゼンテーションとグループ討議を行う.
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		
備考	本科目の修得には,30 時間の授業の受講と 60 時間の事前・事後自己学習が必要である. 後期定期試験を実施する.	

科 目	交通計画 (Traffic Planning)				
担当教員	小塚 みすず 准教授				
対象学年等	都市工学専攻・1年・後期・選択・2単位【講義】				
学習・教育目標	A4-AS4(100%)		JABEE基準	(d),(g)	
授業の概要と方針	交通計画の基礎的技法を学ぶとともに,持続可能な地域社会を形成するための交通システムについて学習し,交通計画技術者として必要な基本的能力を習得する.演習課題や交通システムについての調査の実施により交通に対する理解を深める.				
	到達目標		達成度	到達目標別の評価方法と基準	
1	【A4-AS4】交通計画と交通問題について理解できる.			交通計画と交通問題について理解できているか,レポートおよび定期試験で評価する.	
2	【A4-AS4】交通施設と交通サービスの関係が理解できる.			交通施設と交通サービスの関係が理解できているか,レポートおよび定期試験で評価する.	
3	【A4-AS4】交通計画における主要な施策や総合交通計画について理解できる.			交通計画における主要な施策や総合交通計画について理解できているか,レポートおよび定期試験で評価する.	
4	【A4-AS4】交通需要推計が理解できる.			交通需要推計が理解できているか,レポートおよび定期試験で評価する.	
5	【A4-AS4】自動車交通流,交通容量,道路の計画・設計について理解できる.			自動車交通流,交通容量,道路の計画・設計について理解できているか,レポートおよび定期試験で評価する.	
6	【A4-AS4】地域交通計画や国内外の交通システムについて理解できる.			地域交通計画や国内外の交通システムについて理解できているか,レポートおよび定期試験で評価する.	
7					
8					
9					
10					
総合評価	成績は,試験70% レポート30% として評価する.試験成績は定期試験の得点のみとする.総合評価は100点満点で60点以上を合格とする.一つでもレポートが未提出の場合は不合格とする.				
テキスト	「地域交通の計画」:竹内伝史他(鹿島出版会) 授業時に配布するプリント				
参考書	「道路交通技術必携2018」:一般財団法人交通工学研究会(丸善株式会社) 「読んで学ぶ交通工学・交通計画」:久保田尚他(理工図書)				
関連科目	都市交通計画学,都市計画				
履修上の注意事項					

授業計画(交通計画)		
	テーマ	内容(目標・準備など)
1	ガイダンスおよび交通計画の概要	本講義の授業計画について説明する.交通の発達と社会,経済,くらしとの関係について解説する.
2	交通問題の変遷	交通問題の変遷と対策について解説する.
3	交通施設と交通サービス	交通施設と交通サービスについて解説する.
4	交通計画における主要な施策	交通計画における主要な施策について解説する.
5	総合交通計画の技法	総合交通計画の意義,策定システム,実態調査技法について解説する.
6	交通需要推計(1)	4段階推計法について解説し,現在パターン法の計算演習を行う.
7	交通需要推計(2)	発生・集中交通量および分布交通量について解説し,計算演習を行う.
8	交通需要推計(3)	配分交通量について解説し,計算演習を行う.
9	自動車交通流	自動車交通流の概要について解説する.
10	交通容量(単路部)	単路部の交通容量について解説し,計算演習を行う.
11	交通容量(交差点)	交差点の交通容量について解説し,計算演習を行う.
12	道路の計画・設計	道路の計画・設計について解説し,計算演習を行う.
13	地域交通計画	地域交通計画について解説する.
14	国内外の交通システム	国内および海外の交通システムの事例について解説する.
15	将来の交通計画	将来の交通システムについて解説する.
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		
備考	本科目の修得には,30 時間の授業の受講と 60 時間の事前・事後自己学習が必要である. 後期定期試験を実施する.演習課題・レポートを課す.計算演習を行うので,電卓を持参すること.外部機関での見学会がある場合,授業日程を変更することになるので注意すること.	

科 目	都市計画 (Urban Planning)				
担当教員	今井 洋太 助教				
対象学年等	都市工学専攻・1年・前期・選択・2単位【講義】				
学習・教育目標	A4-AS4(100%)		JABEE基準	(d),(g)	
授業の概要と方針	都市計画の歴史的背景や現代の都市計画の潮流,および都市計画法や建築基準法などの法令についての基礎を理解する.また,市民参加や合意形成の重要性を理解し,交通・防災・環境・経済などをふまえた包括的な都市計画・まちづくりのプロセスについて理解を深める.				
	到達目標		達成度	到達目標別の評価方法と基準	
1	【A4-AS4】世界および日本における都市計画の歴史的背景について説明できる.				都市計画の歴史的背景についての理解度をレポートおよび定期試験で評価する.
2	【A4-AS4】都市計画法,建築基準法などの法令の概要を説明できる.				都市計画に関連する法令についての理解度をレポートおよび定期試験で評価する.
3	【A4-AS4】都市における公園緑地の役割を理解し,その計画プロセスについて説明できる.				公園緑地の計画プロセスについての理解度をレポートおよび定期試験で評価する.
4	【A4-AS4】都市計画・まちづくりにおける市民参加の意義と重要性を説明できる.				市民参加と合意形成についての理解度をレポートおよび定期試験で評価する.
5	【A4-AS4】地域住民が主体となった様々なまちづくり活動のあり方について説明できる.				交通・防災・環境・経済などをふまえた包括的なまちづくり活動についての理解度をレポートおよび定期試験で評価する.
6					
7					
8					
9					
10					
総合評価	成績は,試験85% レポート15% として評価する.100点満点で60点以上を合格とする.試験は定期試験のみ実施する.				
テキスト	「都市計画とまちづくりがわかる本―第二版―」:伊藤雅春ほか(彰国社) 講義時に配付するプリント				
参考書	「都市計画の思想と場所―日本近現代都市計画史ノート」:中島直人(東京大学出版会) 「都市をたたむ―人口減少時代をデザインする都市計画」:饗庭伸(花伝社) 「コミュニティデザイン―人がつながるしくみをつくる」:山崎亮(学芸出版社)				
関連科目	景観工学(S5),都市情報工学(S5),交通計画(AS1)				
履修上の注意事項					

授業計画(都市計画)		
	テーマ	内容(目標・準備など)
1	講義の概要と進め方	講義の目的・進め方を説明し,都市計画とまちづくり論についても概説する。
2	世界の都市計画史	世界各地における都市計画の歴史的経緯について概説する。
3	日本の都市計画史	日本の都市計画の歴史的経緯について概説する。
4	現代の都市計画	現代の都市計画の潮流とその基本的思想を紹介する。
5	都市計画にかかわる法制度(1)	建築基準法,建蔽率,容積率,高さ制限などについて概説する。
6	都市計画にかかわる法制度(2)	都市計画法,都市計画マスタープラン,地域地区などについて概説する。
7	公園緑地の計画とマネジメント	都市計画における公園緑地の役割,および計画とマネジメントの手法を紹介する。
8	市民参加と合意形成	都市計画における市民参加と合意形成のプロセスについて概説する。
9	まちづくりとコミュニティデザイン(1)	まちづくり,コミュニティデザインに関する活動の背景と枠組みについて,従来の都市計画と比較しながら概説する。
10	まちづくりとコミュニティデザイン(2)	地域が主体となった商店街や過疎地域の活性化方策,および地域の価値発見と情報発信の手法について,具体的事例をまじえて紹介する。
11	フィールドワーク(1)	神戸市内におけるまちづくりの実践現場でフィールドワークを行う。
12	フィールドワーク(2)	神戸市内におけるまちづくりの実践現場でフィールドワークを行う。
13	交通とまちづくり	コミュニティバスやLRTなどを導入したまちづくりの事例を紹介する。
14	防災とまちづくり	地域主体による安心・安全なまちづくりに向けた取り組みを紹介する。
15	地球環境問題とまちづくり	脱温暖化,生物多様性などの地球環境問題をふまえたまちづくりの活動を紹介する。
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		
備考	本科目の修得には,30 時間の授業の受講と 60 時間の事前・事後自己学習が必要である。 前期定期試験を実施する。	

科 目		応用材料学 (Applied Material Engineering)			
担当教員		水越 睦視 教授			
対象学年等		都市工学専攻・1年・後期・選択・2単位【講義】			
学習・教育目標		A4-AS3(100%)		JABEE基準	(d),(g)
授業の概要と方針		特殊コンクリートの特徴,施工上の留意点などについて学ぶ.授業では,各人に先ず分担当箇所を 発表・説明してもらった後,補足説明を行う.自学自習に相当する時間数をかけて担当箇所の発表・説明の準備を各自で行い,作成したパワーポイントのファイルを提出する.			
	到 達 目 標		達成度		到達目標別の評価方法と基準
1	【A4-AS3】各種コンクリートの特性値と配合強度を理解し,設計用値を求めることができる.				各種コンクリートの設計用値に関する理解度を,高強度・高流動・水中不分離性コンについてはプレゼンテーション(以下,プレゼン)と中間試験で,短繊維補強・軽量・マスコンについてはプレゼンと定期試験で評価する.
2	【A4-AS3】各種コンクリートの硬化コンクリートの特性が説明できる.				各種コンクリートの硬化コンクリートの特性に関する理解度を,高強度・高流動・水中不分離性 コンについてはプレゼンと中間試験で,短繊維補強・軽量・マスコンについてはプレゼンと定期試験で評価する.
3	【A4-AS3】各種コンクリートのフレッシュコンクリートの特性が説明できる.				各種コンクリートのフレッシュコンクリートの特性に関する理解度を,高強度・高流動・水中不分離性コンについてはプレゼンと中間試験で,短繊維補強・軽量・マスコンについてはプレゼンと定期試験で評価する.
4	【A4-AS3】各種コンクリートの製造および施工上の留意点が説明できる.				各種コンクリートの製造および施工上の留意点に関する理解度を,高強度・高流動・水中不分離性コンについてはプレゼンと中間試験で,短繊維補強・軽量・マスコンについてはプレゼンと定期試験で評価する.
5					
6					
7					
8					
9					
10					
総合評価		成績は,試験70% プレゼンテーション30% として評価する.試験成績の内訳は中間試験,定期試験50%ずつとする.総合評価は100点満点で60点以上を合格とする.			
テキスト		配付プリント			
参考書		「コンクリート実務便覧」:小林一輔(オーム社)			
関連科目		材料学,コンクリート工学I・II,施工管理学			
履修上の注意事項		コンクリートの配合設計,フレッシュおよび硬化コンクリートの評価方法,コンクリート構造の 設計方法,コンクリートの打設方法などの基礎知識(材料学,コンクリート工学,施工管理学) を有していること.			

授業計画(応用材料学)		
	テーマ	内容(目標・準備など)
1	応用材料学概説	主な特殊コンクリートの種類と長所,短所についての概要を学び理解する。
2	高強度コンクリート(1)	高強度コンクリートが必要とされる背景と配合,硬化コンクリートの特性などの特徴について理解する。
3	高強度コンクリート(2)	高強度コンクリートの製造方法とフレッシュコンクリートの特性,施工上の留意点について理解する。
4	高流動コンクリート(1)	高度流動コンクリートが必要とされる背景と配合,硬化コンクリートの特性などの特徴について理解する。
5	高流動コンクリート(2)	高流動コンクリートの製造方法とフレッシュコンクリートの特性,施工上の留意点について理解する。
6	水中不分離性コンクリート(1)	水中不分離性コンクリートが必要とされる背景と配合,硬化コンクリートの特性などの特徴について理解する。
7	水中不分離性コンクリート(2)	水中不分離性コンクリートの製造方法とフレッシュコンクリートの特性,施工上の留意点について理解する。
8	中間試験	1から7回目までの講義内容について試験を行う。
9	中間試験の解答・解説および短繊維補強コンクリート(1)	中間試験の解答・解説を行う。また,短繊維補強コンクリートが必要とされる背景と配合,硬化コンクリートの特性などの特徴について理解する。
10	短繊維補強コンクリート(2)	短繊維補強コンクリートの製造方法とフレッシュコンクリートの特性,施工上の留意点について理解する。
11	軽量コンクリート(1)	軽量コンクリートが必要とされる背景と配合,硬化コンクリートの特性などの特徴について理解する。
12	軽量コンクリート(2)	軽量コンクリートの製造方法とフレッシュコンクリートの特性,施工上の留意点について理解する。
13	マスコンクリート(1)	マスコンクリートとしての配慮が必要とされる背景と配合,硬化コンクリートの特性などの特徴について理解する。
14	マスコンクリート(2)	マスコンクリートの製造方法とフレッシュコンクリートの特性,施工上の留意点について理解する。
15	特殊コンクリートに関する総括	これまで学んできた各種コンクリートの性質についてポイントとなる基本事項の復習・確認をい行う。
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		
備考	本科目の修得には,30 時間の授業の受講と 60 時間の事前・事後自己学習が必要である。 後期中間試験および後期定期試験を実施する。	

科 目	コンクリート診断学 (Concrete Diagnostics)			
担当教員	高科 豊 准教授			
対象学年等	都市工学専攻・1年・前期・選択・2単位【講義】			
学習・教育目標	A4-AS1(25%), A4-AS2(25%), A4-AS3(25%), A4-AS4(25%)	JABEE基準	(d),(g)	
授業の概要と方針	コンクリート構造物は,造るとともに,維持管理する時代にある.また,コンクリートの劣化現象は,多くの要因が複雑に関わる.コンクリート診断学では,新しい時代の社会インフラ整備のあり方を鑑み,融合領域,国際性ととともに最先端診断技術を学習する.			
	到達目標	達成度	到達目標別の評価方法と基準	
1	【A4-AS1】コンクリート構造物の様々な劣化現象を説明できる.			コンクリートの劣化現象について,前期中間試験及びレポートで評価する.
2	【A4-AS2】劣化を受けたRC梁の耐力計算を説明できる.			劣化を受けたRC梁の耐力計算を前期定期試験で評価する.
3	【A4-AS3】コンクリート診断技術を説明できる.			コンクリート診断技術について,前期定期試験及びレポートで評価する.
4	【A4-AS4】自然環境の中のコンクリートの問題を説明できる.			自然環境の中のコンクリートの問題を前期定期試験で評価する.
5				
6				
7				
8				
9				
10				
総合評価	成績は,試験70% レポート30% として評価する.総合評価は,100点満点で,60点以上を合格とする.中間試験と定期試験の配分は,50%,50%とする.			
テキスト	コンクリート構造物の維持管理:小林一輔,牛島栄著(森北出版)			
参考書	配付プリント 図説 わかる メンテナンス:宮川豊章,森川英典(学芸出版社)			
関連科目	コンクリート工学,材料学			
履修上の注意事項	レポートは,自己学習として,重きを置く.			

授業計画(コンクリート診断学)		
	テーマ	内容(目標・準備など)
1	コンクリート構造物の劣化と社会的背景及びガイダンス	ガイダンス及び維持管理の時代の必要性について講義する。
2	コンクリートの診断技術 超音波測定	コンクリートの診断技術等について講義する。
3	コンクリート組織の見方	セメント水和物の相組成,空隙,遷移帯等,組織構造について講義する。
4	炭酸化・中性化1	炭酸化によるコンクリートの劣化を講義する。
5	炭酸化・中性化2	鉄筋腐食によるコンクリートの劣化を講義する。
6	鉄筋腐食1	鉄筋腐食によるコンクリートの劣化を講義する。
7	コンクリートの劣化現象のまとめ	炭酸化,鉄筋腐食によるコンクリートの劣化・組織・技術を講義する。
8	中間試験	中間試験
9	自然電位法・電気防食・分極抵抗法による検討	中間試験の解説及び自然電位法・電気防食・分極抵抗法について講義する。
10	劣化したRC梁のトラス理論	累加法における実験,計算を講義する
11	アルカリ骨材反応によるコンクリートの劣化	アルカリ骨材反応によるコンクリートの劣化を講義する。
12	下水道腐食による道路陥没	コンクリートの化学的腐食を講義する。
13	コンクリート構造物等の修景デザイン	修景評価について講義する
14	コンクリートの診断技術(レーザ・レーダ)	コンクリートの診断技術等非破壊探査について講義する。
15	融雪剤やタンニン酸によるコンクリートの劣化	融雪剤やタンニン酸によるコンクリートの劣化を講義する。
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		
備考	本科目の修得には,30 時間の授業の受講と 60 時間の事前・事後自己学習が必要である。 前期中間試験および前期定期試験を実施する.コンクリート診断士の資格取得に寄与できる内容とする。	

科 目	建築計画 (Archtectural Design and Planning)				
担当教員	田島 喜美恵 准教授				
対象学年等	都市工学専攻・1年・前期・選択・2単位【講義】				
学習・教育目標	A4-AS1(100%)		JABEE基準	(d),(g)	
授業の概要と方針	建築設計とは,設計者が中心的な役割を果たす前段階(建物の基本的な形態を決定する)の基本計画と,材料や細部のおさまりを決定する実施設計に分けられるが,建築計画は前者とのかかわりが深い,適切な設計を行うためには設計基準や建物の使い方を知ることが重要である.本講義では,これらのことを習得することを目標とし,2級建築士の学科試験(計画)にも対応している.				
	到達目標		達成度		到達目標別の評価方法と基準
1	【A4-AS1】住環境計画についての基本事項・寸法が説明できる.				住環境計画についての基本事項・寸法が理解できているかどうか,中間試験で評価する.
2	【A4-AS1】学校や幼稚園・保育所等の就学前乳幼児施設の建築について基本事項や寸法が説明できる.				学校や幼稚園・保育所等の就学前乳幼児施設の建築について基本事項や寸法が理解できているかどうか,中間試験で評価する.
3	【A4-AS1】病院等の医療福祉建築についての基本事項や寸法が説明できる.				病院等の医療福祉建築についての基本事項や寸法・図面が理解できているかどうか,定期試験で評価する.
4	【A4-AS1】図書館や美術館や博物館について基本事項や寸法が説明できる.				図書館や美術館や博物館についての基本事項や寸法・図面が理解できているかどうか,定期試験で評価する.
5	【A4-AS1】施設計画の基本事項や要点について説明できる.				施設計画の基本事項や要点について理解できているかどうか,レポートならびにプレゼンテーションにて評価する.
6					
7					
8					
9					
10					
総合評価	成績は,試験70% レポート10% プレゼンテーション20% として評価する.中間試験と定期試験の平均を試験の評価とし,建築に関するレポートと公共施設に関するプレゼン内容も併せて評価の対象とする.総合評価は100点満点中60点以上を合格とする.				
テキスト	適宜,建築計画に関する資料を配付する				
参考書	「建築計画」,長澤泰,市谷出版(2007) 「パタン・ランゲージ」,C・アレグザンダー,鹿島出版社(1984) 「テキスト建築計画」,川崎寧史,山田あすか編著,学芸出版社(2010)				
関連科目	建築計画(S5),建設都市法規,建築施工,土木・建築設計製図I,II,III,IV,応用建築設計製図I,II				
履修上の注意事項	欠課時数が授業総時間の1/3を超えた場合は不履修とし,評価は行わない.				

授業計画(建築計画)		
	テーマ	内容(目標・準備など)
1	ガイダンス及び建築計画の範囲	建築計画とは何か,どの範囲を含むのか,この講義を学ぶことの意義,応用などについて説明を行う。
2	住宅計画	住様式や住要求の変容など,住居の変遷を歴史的な住様式を紹介しながら説明する。
3	集合住宅の計画	近隣住区論やコミュニティなど,集まって住むことの意義などについて説明する。
4	幼稚園・保育所の計画	幼稚園や保育所などの就学前乳幼児施設の計画について説明する,こどもの成長に配慮した保育環境のあり方などを既存施設などを例に説明する。
5	学校の計画	小学校や中学校など義務教育の計画と,高校の計画について説明する,学校運営方式の種類とその特徴及び空間構成について既存施設などを例に説明する。
6	バリアフリー法(1)	バリアフリー法について説明する,学校におけるバリアフリー状況を調査する。
7	バリアフリー法(2)	学校におけるバリアフリー状況の調査をまとめて,バリアフリーマップを作成し,発表及びディスカッションをおこなう。
8	中間試験	1～7回目の範囲で出題する。
9	中間試験の解答・解説及び図書館の計画	中間試験の解答・解説をおこなう,図書館の規模や必要面積・設備などの基本事項について説明する,図書の出納方式の種類とその特徴及び空間構成について既存施設などを例に説明する。
10	医療福祉建築の計画(1)	病院や高齢者施設などの医療福祉建築の規模,種類や必要面積・設備などの基本事項について説明を行う,共用部分,外との関係性など,多様な要素を計画していくための手法を既存施設などを例に説明する。
11	医療福祉建築の計画(2)	医療福祉建築に関する研究論文を読み,プレゼンテーションを行う。
12	博物館・美術館の計画	美術館や博物館の計画基礎や展示方式,収納スペースや職員の動線などについて,具体的な設計例を挙げながら説明する。
13	博物館の調査(1)	博物館へ行き,展示手法や動線などの調査を行う。
14	博物館の調査(2)	博物館へ行き,展示手法や動線などの調査を行う。
15	博物館に関するプレゼンテーション	博物館に関する調査結果のプレゼンテーション及びディスカッションを行う。
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		
備考	本科目の修得には,30 時間の授業の受講と 60 時間の事前・事後自己学習が必要である。 前期中間試験および前期定期試験を実施する。	

科 目	応用建築設計製図 I (Advanced Architectural Design and Drawing I)				
担当教員	田島 喜美恵 准教授				
対象学年等	都市工学専攻・1年・前期・選択・2単位【講義・演習】				
学習・教育目標	A4-AS1(100%)		JABEE基準	(d),(g)	
授業の概要と方針	本科目は住宅設計の基礎知識及び手法を修得するための演習である。製図法の基礎的な考え方やルール,記号や専門用語といった知識を習得した上で,図面及び模型を作成し,住宅の設計を行うものである。特定の敷地を題材として,敷地の周辺環境を読み解く技術,さまざまな要求を整理統合する技術,人の生活をイメージしながら空間を構想する方法を学ぶ。なお,この教科はAS1建築計画も併せて履修しておくことが必須である。				
	到達目標		達成度	到達目標別の評価方法と基準	
1	【A4-AS1】戸建て住宅を設計することができる。				専門用語や製図法などの設計上の基礎を理解しているかをレポートおよび提出図面にて評価する。
2	【A4-AS1】住宅模型を制作することができる。				住宅模型の制作法を理解しているかを,提出図面における模型写真にて評価する。
3	【A4-AS1】作成したものを第三者にわかりやすく伝えることができる。				設計コンセプトや図面内容をわかりやすく第三者に伝えることができるかを,図面の加工・レイアウト及び講評会におけるプレゼンテーションにて評価する。
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					
総合評価	成績は,レポート10% プレゼンテーション10% 戸建て住宅図面(平面・立面・断面)60% 模型写真および図面の加工・レイアウト20% として評価する。100点満点中60点以上を合格とする。なお,ひとつでも未提出課題(図面,模型写真,レポート,プレゼンテーション)がある場合は不合格とする。				
テキスト	適宜プリントを配付				
参考書	「やさしく学ぶ設計製図」,松下希和 著,2011,エクスナレッジムック コンパクト建築設計資料集成,日本建築学会,2005,丸善				
関連科目	建築計画(S5),建築計画(AS1),土木・建築設計製図I～IV,応用CAD,CAD基礎,建設都市法規,建築施工				
履修上の注意事項	建築計画(AS1)を受講していること。				

授業計画(応用建築設計製図Ⅰ)		
	テーマ	内容(目標・準備など)
1	ガイダンス及び事例調査	課題説明を行う。また、建築系雑誌などで住宅設計の事例を調べレポートにまとめる。
2	敷地現地調査	設定敷地を見て、周りの環境などを調査する。
3	敷地模型の制作	現地調査と地図情報を元に、敷地模型制作を行う。
4	戸建て住宅のエスキス	エスキスを繰り返ししながら、コンセプトを固めていく。
5	戸建て住宅の図面制作(1)	エスキス図面をもとに、CADで具体的な図面の作成を行う。
6	戸建て住宅の図面制作(2)	引き続き、図面の作成を行う。
7	戸建て住宅の図面制作(3)	引き続き、図面の作成を行う。
8	住宅模型の制作(1)	作成した図面をもとに、模型制作を行う。
9	住宅模型の制作(2)	引き続き、作成した図面をもとに、模型制作を行う。
10	住宅模型の制作(3)	引き続き、作成した図面をもとに、模型制作を行う。
11	住宅模型の制作(4)	家具などの細部も作り込み、模型を完成させ、写真撮影を行う。
12	プレゼンテーションの技術(1)	作成した図面や模型写真を元に、効果的なプレゼン、レイアウトを考え、デザインソフトにて提出図面の制作を行う。
13	プレゼンテーションの技術(2)	引き続き、デザインソフトにて提出図面の制作を行う。
14	プレゼンテーションの技術(3)	提出図面を完成させ、発表のためのパワーポイントを作成する。
15	プレゼン発表と講評会	プレゼンテーションを行い、活発な討議を行う。
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		
備考	本科目の修得には、30 時間の授業の受講と 60 時間の事前・事後自己学習が必要である。 中間試験および定期試験は実施しない。提出図面および模型写真、プレゼンテーションにて評価する。	

科 目	応用建築設計製図Ⅱ (Advanced Architectural Design and Drawing II)				
担当教員	田島 喜美恵 准教授				
対象学年等	都市工学専攻・1年・後期・選択・2単位【講義・演習】				
学習・教育目標	A4-AS1(100%)		JABEE基準	(d),(g)	
授業の概要と方針	本科目では幼稚園の設計を行う.特定の敷地を題材として,敷地の周辺環境を読み解く技術,さまざまな要求を整理統合する技術などを小規模な幼稚園の設計を通して学ぶことを目的とする.なお,この教科は応用建築設計製図Iを踏襲した上での教科に位置付けられているため,応用建築設計製図Iに合格していることが必須である.				
	到達目標		達成度	到達目標別の評価方法と基準	
1	【A4-AS1】幼稚園を設計することができる.				専門用語や製図法などの設計上の基礎を理解しているかを,レポートおよび提出図面にて評価する.
2	【A4-AS1】幼稚園の模型を制作することができる.				建築模型の制作法を理解しているかを,提出図面における模型写真にて評価する.
3	【A4-AS1】作成したものを第三者にわかりやすく伝えること(プレゼンテーション)ができる.				設計コンセプトや提出図面内容をわかりやすく第三者に伝えることができるかを,図面の加工・レイアウト及び講評会におけるプレゼンテーションにて評価する.
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					
総合評価	成績は,レポート10% プレゼンテーション10% 幼稚園の図面(平面・立面・断面)60% 模型写真および図面の加工・レイアウト20% として評価する.100点満点で60点以上を合格とする.なお,ひとつでも未提出課題(図面,模型写真,レポート,プレゼンテーション)がある場合は不合格とする.				
テキスト	適宜プリントを配付				
参考書	やさしく学ぶ設計製図,松下希和 著,2011,エクスナレッジムック コンパクト建築設計資料集成,日本建築学会,2005,丸善				
関連科目	応用建築設計製図I,建築計画(S5),建築計画(AS1),土木・建築設計製図I～IV,応用CAD,CAD基礎,建設都市法規,建築施工				
履修上の注意事項	応用建築設計製図Iに合格していること.				

授業計画(応用建築設計製図Ⅱ)		
	テーマ	内容(目標・準備など)
1	ガイダンス及び敷地分析	課題説明を行い、敷地分析を行う。
2	事例調査	建築系雑誌などで幼稚園設計の事例を調べレポートにまとめる。
3	エスキスとコンセプトワーク	エスキスを繰り返しながら、コンセプトを固めていく。
4	幼稚園の図面制作(1)	エスキスなどをしてラフで完成した図面をもとに、CADで具体的な図面の作成を行う。
5	幼稚園の図面制作(2)	引き続き、図面の作成を行う。
6	幼稚園の図面制作(3)	引き続き、図面の作成を行う。
7	幼稚園の図面制作(4)	引き続き、図面の作成を行う。
8	模型の制作(1)	制作した図面をもとに、模型製作を行う。
9	模型の制作(2)	引き続き、制作した図面をもとに、模型製作を行う。
10	模型の制作(3)	引き続き、制作した図面をもとに、模型製作を行う。
11	模型の制作(4)	幼稚園の模型だけではなく、外周や外構や植栽、遊具なども模型で完成させる。
12	プレゼンテーションの技術(1)	制作した図面や模型写真を元に、提出図面の効果的なプレゼン、レイアウトの手法を学ぶ。
13	プレゼンテーションの技術(2)	作成した図面などをデザインソフトにて着色・加工などを行い、より伝えたいイメージを具体的にしていく。
14	プレゼンテーションの技術(3)	模型写真も様々な角度から撮影し、内観パースに見えるよう、デザインソフトにて加工を施し、提出用紙にレイアウトを行う。
15	プレゼン発表と講評会	制作した図面をもとにプレゼンテーションを行い、そのデザインについて活発な討議を行う。
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		
備考	本科目の修得には、30 時間の授業の受講と 60 時間の事前・事後自己学習が必要である。 中間試験および定期試験は実施しない。提出図面および模型写真、プレゼンテーションにて評価する。	

科 目		エンジニアリングデザイン演習 (Exercise of Engineering Design)			
担当教員		西田 真之 教授, 熊野 智之 准教授, 津吉 彰 教授, 笠井 正三郎 教授, 濱田 守彦 講師, 水越 睦視 教授【実務経験者担当科目】			
対象学年等		全専攻・2年・後期・必修・1単位【実験実習】			
学習・教育目標		A2(20%), B1(10%), B2(10%), C1(30%), C2(10%), C4(10%), D1(10%)		JABEE基準	(b),(c),(d)1,(d)2-a,(d)2-b,(d)2-c,(d)2-d,(e),(f),(g),(h),(i)
授業の概要と方針		構想力,専門的知識や技術を統合して必ずしも正解のない問題に取り組み,専門分野が異なる少人数のグループでチームワーク力や協調性を養うとともに,実現可能な 解を見つけ出していく能力を養う.テーマに対して,グループ内の学生同士や担当教官と適宜ディスカッションをしながら解決法を模索する.進行状況に関する報告書を提出し,中間報告会や成果発表会では各班ごとに得られた成果を発表することとする.本実験の一部は,企業の実務経験教員が担当し,ものづくりについても指導します.			
	到達目標		達成度		到達目標別の評価方法と基準
1	【A2】与えられた課題を十分理解した上で作業を進め,解を導き出すのに必要な原理,方法,技術を習得する.				与えられたテーマに対する基礎知識をレポートで評価する.
2	【A2】作業を通して得られた結果を整理し,考察を展開してレポートとしてまとめることができる.				与えられたテーマへの理解度,結果の適切な処理および考察の内容をレポートにより評価する.必要により面談で理解度を確認する.
3	【A2】他分野の工学に関心を持ち専門技術に関する知識を身につける.				与えられたテーマの解決策の理解度とその経験を自分の専門分野に反映させる複合的視野が得られたかをレポートにより評価する.必要により,面談で理解度を確認する.
4	【B1】得られた結果を適切に表す図・表が書ける.				各テーマごとのレポートの内容で評価する.
5	【B2】グループ内で建設的な議論を行い,共同して作業を遂行し,良い発表が出来る.				グループ内で積極的かつ建設的な議論を行ったかどうかを実験中または面談により評価し,良い発表が出来たかどうかを成果発表会で評価する.
6	【C1】得られた結果から適当な処理をし,レポートにまとめることができる.				各テーマごとのレポートの内容で評価する.
7	【C2】他分野の工学に関心を持ち,複合的視野を持つ.				当てられたテーマの解決策に対する理解度と,その経験を自分の専門分野へ反映させる複合的視野が得られたかどうかをレポートにより評価する.
8	【C4】期限内にレポートを提出できる.				各テーマごとのレポートの提出状況で評価する.
9	【D1】器機の取り扱いに注意し,安全に作業に取り組むことができる.				安全に作業を進めているかどうかを,各テーマの取り組みで評価する.
10					
総合評価		成績は,レポート40%,作業の遂行状況40%,成果発表20%として評価する.各テーマにおいて遂行状況,理解度,技術の習得,考察力,コミュニケーション能力を総合して100点法で担当指導教員が評価し,その平均を総合評価とする.100点満点で60点以上を合格とする.			
テキスト		各テーマで準備されたプリント,器機のマニュアル.			
参考書		各テーマに関して指導教員が示す参考書			
関連科目		提供されるテーマに関する基礎,専門科目			
履修上の注意事項		与えられたテーマに関係する他分野の工学についてその基礎知識を十分予習しておくこと.また,出席してグループ内で共同して作業を行うことを前提として評価を行う.			

授業計画(エンジニアリングデザイン演習)

内容(テーマ, 目標, 準備など)

- 1週目: ガイダンス
グループ分け, テーマ決定等を行う。
- 2週目: 発表会資料作成
テーマ設定発表会に向けてグループごとに発表資料作成を行う。
- 3週目: テーマ設定発表会
各グループで設定したテーマについてグループ単位で発表を行う。
参加者全員で質疑を行い, 設定したテーマに取り組む上での課題を明確化する。
- 4～8週目: デザイン演習
設定したテーマに対して演習計画を作成し, グループごとに作業を進める。
予算は各グループ1万円程度とし, 週ごとにその日に行った作業内容のレポートを提出する。
- 9週目: 中間報告会
報告会に先立ち, 外部講師による講義(製品開発の体験談など)を受ける。
グループ単位で中間報告を行い, その後に参加者全員で質疑を行うことで問題点を洗い出す。
予算使用状況・使用計画についても報告する。
- 10～14週目: デザイン演習
中間報告会で明らかとなった問題点を踏まえて, グループごとに作業を進める。
- 15週目: 成果発表会
半年間の活動を通して得られた成果をグループ単位で発表する。
参加者全員で質疑を行い, 課題等を見いだす。

備考 本科目の修得には, 45 時間の授業の受講が必要である。
中間試験および定期試験は実施しない。

科 目		専攻科ゼミナールⅡ (Advanced Course Seminar II)			
担当教員		伊原 茂 教授, 鳥居 宣之 教授, 柿木 哲哉 教授, 上中 宏二郎 教授, 野並 賢 教授, 宇野 宏司 教授, 高科 豊 准教授, 田島 喜美恵 准教授, 小塚 みすず 准教授, 今井 洋太 助教			
対象学年等		都市工学専攻・2年・前期・必修・2単位【演習】			
学習・教育目標		B4(40%), C2(60%)		JABEE基準	(d),(e),(f),(g),(i)
授業の概要と方針		都市工学に関連する英語論文を輪読し,日本語要約を行うことで工学分野の英語表現を学ぶ.さらに,関連する英文文献を自身で調査し,その概要についての討論をゼミナール形式で行うことで,幅広い工学分野の新しい学識を得るとともに,最新技術や研究の手法について実践的に学ぶ.			
	到達目標		達成度		
			到達目標別の評価方法と基準		
1	【B4】都市工学関連の英語論文を読み,その内容を理解し,日本語で説明できる.				都市工学関連の英語論文の内容について,日本語で説明したレポートで評価する.
2	【C2】専門分野の問題に関連する英文文献を調査し,その内容を発表することができる.				専門分野の問題に関する英文文献を調査,発表させ,資料として作成したレポートで評価する.
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					
総合評価		成績は,レポート100% として評価する.各担当教員による評価点を平均して評価する.総合評価は100点満点で60点以上を合格点とする.			
テキスト		適宜,都市工学に関する英文資料等を配付する.			
参考書					
関連科目		都市工学全般			
履修上の注意事項		都市工学実験実習,卒業研究:都市工学に関する調査・分析手法など基礎的な知識を必要とする.			

授業計画(専攻科ゼミナールⅡ)		
	テーマ	内容(目標・準備など)
1	授業ガイダンス,地盤工学(Geotechnical Engineering)に関する英文文献の輪読	シラバス内容の説明,地盤工学に関する英文文献を輪読し,日本語要約をおこなう。
2	コンクリート診断(Concrete diagnosis)に関する英語論文の輪読	コンクリート診断に関する英語論文を輪読し,日本語要約をおこなう。
3	コンクリート診断(Concrete diagnosis)に関する英文文献調査と発表	与えられたコンクリート診断の課題に関する英文文献を各自で調査するとともに,その課題に対する解決策等を受講者全員で討議し,その内容について発表する。
4	鋼構造(Steel Structures)に関する英語論文の輪読	鋼構造(Steel Structures)に関する英語論文を輪読し,日本語要約をおこなう。
5	複合構造(Hybrid Structures)に関する英語論文の輪読	複合構造に関する英語論文を輪読し,日本語要約をおこなう。
6	複合構造(Hybrid Structures)に関する英文文献調査と発表	与えられた複合構造の課題に関する英文文献を各自で調査するとともに,その課題に対する解決策等を受講者全員で討議し,その内容について発表する。
7	海岸工学(Coastal Engineering)に関する英語論文の輪読	海岸工学に関する英語論文を輪読し,日本語要約をおこなう。
8	海岸工学(Coastal Engineering)に関する英文文献調査と発表	与えられた海岸工学の課題に関する英文文献を各自で調査するとともに,その課題に対する解決策等を受講者全員で討議し,その内容について発表する。
9	建築計画(Architectural Planning)に関する英語論文の輪読	建築計画に関する英語論文を輪読し,日本語要約をおこなう。
10	生態系を活用した防災・減災(Eco-DRR)に関する英語論文の輪読	Eco-DRRに関する英語論文を輪読し,日本語要約をおこなう。
11	生態系を活用した防災・減災(Eco-DRR)に関する英文文献調査と発表	与えられたEco-DRRの課題に関する英文文献を各自で調査するとともに,その課題に対する解決策等を受講者全員で討議し,その内容について発表する。
12	地盤防災工学(Geo-Disaster Prevention Eng.)に関する英語論文の輪読	地盤防災工学に関する英語論文を輪読し,日本語要約をおこなう。
13	地盤防災工学(Geo-Disaster Prevention Eng.)に関する英文文献調査と発表	与えられた地盤防災工学の課題に関する英文文献を各自で調査するとともに,その課題に対する解決策等を受講者全員で討議し,その内容について発表する。
14	交通工学(Traffic Engineering)に関する英語論文の輪読	交通工学に関する英語論文を輪読し,日本語要約をおこなう。
15	交通工学(Traffic Engineering)に関する英文文献調査と発表	与えられた交通工学の課題に関する英文文献を各自で調査するとともに,その課題に対する解決策等を受講者全員で討議し,その内容について発表する。
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		
備考	本科目の修得には,60 時間の授業の受講と 30 時間の事前・事後の自己学習が必要である。 中間試験および定期試験は実施しない。毎回,英和辞典を持参すること。	

科 目		専攻科特別研究Ⅱ (Graduation Thesis for Advanced Course II)		
担当教員		伊原 茂 教授, 水越 睦視 教授, 鳥居 宣之 教授, 柿木 哲哉 教授, 上中 宏二郎 教授, 野並 賢 教授, 宇野 宏司 教授, 高科 豊 准教授, 田島 喜美恵 准教授, 小塚 みすず 准教授		
対象学年等		都市工学専攻・2年・通年・必修・8単位【研究】		
学習・教育目標		B1(15%), B2(15%), B4(5%), C2(65%)	JABEE基準	(d),(e),(f),(g),(i)
授業の概要と方針		専攻科特別研究Ⅰを継続する。専門知識の総合化により研究開発およびデザイン能力を高める。研究課題における問題を学生自ら発見し、広い視野をもって理論的・体系的に問題解決する能力を養う。研究テーマの設定にあたっては研究の新規性、有用性、理論的検討を重視する。研究の内容や進捗状況を確認し、プレゼンテーション能力の向上を図るため発表会を実施する。研究成果を報告書にまとめ提出する。		
	到達目標	達成度	到達目標別の評価方法と基準	
1	【C2】設定した研究テーマについて、指導教員の下で基礎知識や専門知識を総合して研究を遂行する能力を養う。			研究課題の探究力、実験計画力、研究遂行力を日常の研究活動実績、および最終報告書の充実度から評価する。
2	【B1】研究成果を報告書としてまとめ、簡潔に研究内容を発表する能力を身に付ける。			特別研究発表会において内容、構成、発表に対して評価する。
3	【B2】研究内容に関する質問に対して的確に回答できる。			特別研究発表会において質疑応答に対して評価する。
4	【B4】研究に関連した英語の文献を参照し、また研究内容の概要を的確な英文で示すことができる。			研究テーマに関連した英語論文を自らの研究に役立てているかは、日常の活動状況や発表会での参照状況から評価する。研究概要を英語で的確に書けているかは最終報告書で評価する。
5				
6				
7				
8				
9				
10				
総合評価		成績は研究課題の探求・実験計画・研究実績および最終報告書の充実度で70%,特別研究発表会の充実度で30%(中間10%,最終20%)として評価する。100点満点で60点以上を合格とする。		
テキスト		研究テーマごとに指定される。		
参考書		研究テーマごとに指定される。		
関連科目		都市工学に関する科目全て		
履修上の注意事項		本教科内容に関してI,IIの期間中に、最低1回の学外発表(関連学協会における口頭またはポスター発表)を義務付ける。		

授業計画(専攻科特別研究Ⅱ)	
内容(テーマ, 目標, 準備など)	
研究は下記から1テーマを選び指導教員の指導のもとで行う. 1) 鋼構造物・コンクリート構造物の補修・補強に関する研究/高架橋の耐震補強に関する研究(伊原茂 教授) 2) コンクリート構造物の高性能・長寿命化に関する研究(水越睦祝 教授) 3) 海岸などの水域における流体運動や底質移動に関する研究(柿木哲哉 教授) 4) 斜面災害の発生危険度評価手法の構築に関する研究(鳥居宣之 教授) 5) 鋼・コンクリート複合構造ならびに鋼構造部材の力学特性(上中宏二郎 教授) 6) 瀬戸内海の防災・環境保全に資する研究/兵庫県・神戸市内の地域防災に関する研究(宇野宏司 教授) 7) コンクリート凍害深さの評価法に関する研究(高科豊 准教授) 8) 盛土の安全性評価手法の開発に関する研究(野並賢 教授) 9) 人々の居心地に着目した建築計画及び地域計画に関する研究(田島喜美恵 准教授) 10) 居住環境の維持および改善に向けた交通施策の検討/都市・地域デザインに関する研究(小塚みすず 准教授)	
備考	本科目の修得には,240 時間の授業の受講と 120 時間の事前・事後の自己学習が必要である. 中間試験および定期試験は実施しない.